



国立大学法人 総合研究大学院大学

SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

2017 — 2018

文化科学研究科

地域文化学専攻
比較文化学専攻
国際日本研究専攻
日本歴史研究専攻
日本文学研究専攻

物理科学研究科

構造分子科学専攻
機能分子科学専攻
天文科学専攻
核融合科学専攻
宇宙科学専攻

高エネルギー 加速器科学研究科

加速器科学専攻
物質構造科学専攻
素粒子原子核専攻

複合科学研究科

統計科学専攻
極域科学専攻
情報学専攻

生命科学研究所

遺伝学専攻
基礎生物学専攻
生理科学専攻

先導科学研究科

生命共生体進化学専攻

<https://www.soken.ac.jp/>



Contents

目次

学長あいさつ	3
大学共同利用機関	6
沿革	8
組織	9
運営組織	9
教育研究組織	10

●文化科学研究科

文化科学研究科とは	13
地域文化学専攻	13
比較文化学専攻	14
国際日本研究専攻	14
日本歴史研究専攻	15
日本文学研究専攻	15

●物理科学研究科

物理科学研究科とは	16
構造分子科学専攻	16
機能分子科学専攻	17
天文科学専攻	17
核融合科学専攻	18
宇宙科学専攻	18

特色ある教育プログラム	26
学融合推進センター	29
学術情報基盤センター	32
本部図書館	32
情報基盤整備推進部	33
国際・社会連携推進部	34
国際連携室	34
広報社会連携室	36
社会へ向けた取組	37
総研大ピープル	38
教育データ	40
平成 29 年度収入・支出予算	46
葉山キャンパスアクセスマップ	47

●高エネルギー加速器科学研究科

高エネルギー加速器科学研究科とは	19
加速器科学専攻	19
物質構造科学専攻	20
素粒子原子核専攻	20

●複合科学研究科

複合科学研究科とは	21
統計科学専攻	21
極域科学専攻	22
情報学専攻	22

●生命科学研究所

生命科学研究所とは	23
遺伝学専攻	23
基礎生物学専攻	24
生理科学専攻	24

●先導科学研究科

先導科学研究科とは	25
生命共生体進化学専攻	25



学長あいさつ



総合研究大学院大学(以下、総研大)は、大学共同利用機関という研究所などを基盤とする専攻と、大学本部に直結した先導科学研究科からなる、学部を持たない大学院だけの大学です。大学共同利用機関とは、各研究分野において日本全国の大学が共同で利用できる研究所であり、これらの機関は、それぞれの研究分野の拠点として最先端の研究を行いながら、研究者コミュニティの中核となり、国際的な共同研究も推進しています。先導科学研究科は、このような基盤機関を持ちませんが、葉山の地で、生物の進化と、科学と社会の関係に関する最先端の研究を行っています。

総研大は、このような優れた研究拠点で院生の教育を行い、次世代の研究者を養成するという、世界にも類をみないコンセプトのもと、1988年10月に設立されました。2018年には30周年を迎えます。

総研大の教育現場は、すなわち、日本の最先端研究の現場です。通常の学部につながった大学院での生活とは大変異なり、とくに5年一貫制の入学者の場合、学部卒ですぐにも専門の研究者に取り巻かれながら、自らの勉学と研究に励むこととなります。学生数の2倍以上にのぼる教員数。ほかでは得られない装置や資料、一流の研究者集団。このような環境で博士論文のための研究をすることは、素晴らしいチャンスではありますが、普通の大学とは異なる面、ストレスもあるかもしれません。

しかし、どの専攻も院生たちを大事にし、そこで過ごす時間が実り多く楽しいものとなるよう工夫しています。大学本部も精いっぱいそれを支えています。学生のみなさんは、この研究環境を最大限に活用し、博士論文研究に取り組んでください。

総研大は創立以来、「高い専門性」と「広い視野」、そして「国際的な通用性」を教育目標に掲げてきました。先に述べたような研究現場で学ぶのですから、「高い専門性」と「国際的な通用性」は、自ずと身につくかもしれません。しかし、「広い視野」はどうでしょうか。「広い視野」とは、自分の研究対象を、もっと広い、人類の知的な活動全体の中で位置づけて語るができる能力、現在の専門分野を越えて、新たな地平を想像することのできる能力です。博士論文の執筆中にこれらを獲得することは難しいかもしれませんが、エネルギー、物質、宇宙、生命、情報、歴史、文化と、幅広い知識領域をカバーする専攻をそろえた本学の特色を活かし、さまざまな機会に広い視野を得る努力をしていただきたいと思います。

現在、大学や基礎研究を取り巻く日本の状況は、決して希望に満ちているとは言えません。また、総研大という高等教育機関が今後どのように発展していくべきか、真剣に考えるべき課題もあります。それでも、先の見えにくい時代にあって、どのような状況でどんなに難しい事態に直面しても、一流の研究者としてそれに立ち向かい、世界で活躍できる人材を輩出していけるよう、関係各位のご協力のもと、日々努力していく所存です。

平成29年4月1日

総合研究大学院大学長

長谷川真理子

はせがわ まりこ 理学博士。東京大学理学部卒。東京大学大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了。タンザニア野生動物局、東京大学理学部人類学教室助手、専修大学助教授・教授、Yale大学人類学部客員准教授、早稲田大学政治経済学部教授を経る。
平成18年総合研究大学院大学教授、平成19年先導科学研究科生命共生体進化学専攻長、平成23年先導科学研究科長を歴任。平成26年理事、平成29年4月より現職。
専門は行動生態学、自然人類学。野生のチンパンジー、イギリスのダマジカ、野生ヒツジ、スリランカのクジャクなどの研究を行ってきた。最近は人間の進化と適応の研究を行っている。
平成20年より人間行動進化学会会長。平成24年日本動物行動学会日高賞受賞。

総合研究大学院大学の特徴

特色ある博士課程教育

- 5年一貫制博士課程制度と博士後期課程制度の併設
- 基盤機関の研究現場を活用した教育プログラム
- 個の能力に即したカスタムメイド教育プログラム
- 社会人学生・留学生受入れプログラム

高い専門性の育成

- 各専攻分野の最先端研究者による研究指導
- 多様な専門教育プログラム
- 長倉研究奨励賞・総研大科学者賞・未来科学者賞
- 基盤機関が有する世界最高水準の資料・施設・設備の活用

広い視野の養成

- 合宿によって行う、全学に開かれたフレッシュマンコース
- 専攻・研究科間の共同教育研究事業
- 遠隔授業システムを活用した専攻横断的教育の提供
- 国内外インターンシップ制度の活用

国際的通用性の確保

- 最先端研究技術・研究者の交流拠点における教育
- プレゼンテーション能力養成プログラム
- 海外学生派遣事業
- 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの活用

分野横断的・ 先導的学問分野の創出

- 各種新分野に対する研究科・専攻を横断する教育プログラムの実施
- 学融合推進センターによる異分野連繋的・社会連携的教育・研究事業の推進
- 「科学と社会」プログラムの全学的な展開
- 修了生を中心とした学術交流ネットワーク

創設の趣旨・目的

近年、従来の学問分野の枠を超えた独創的、国際的な学術研究の推進や、科学の新しい流れを創造する先導的学問分野の開拓の重要性が強く要請されております。

本学は、このような要請に対応する研究者を養成するため、我が国最初の独立大学院大学として創設されました。学問諸分野で先端的な研究を行い、国内外の研究者の共同研究の推進に中心的な役割を果たしている大学共同利用機関等の高度で優れた研究環境を活用して教育を行っています。

本学は、新しい問題を発掘して課題を解決できる、幅広い視野を持った国際的で独創性豊かな研究者を養成します。また、従来の学問分野の枠を超えた異分野連繫的、国際的な学術研究の推進並びに先導的学問分野を開拓します。



大学共同利用機関とは

大学共同利用機関とは、国内外の大学研究者が共同で利用でき、各種の高度で大型の研究施設・実験設備又は貴重な学術資料等を保有する、日本が世界に誇れるトップレベルの研究機関です。

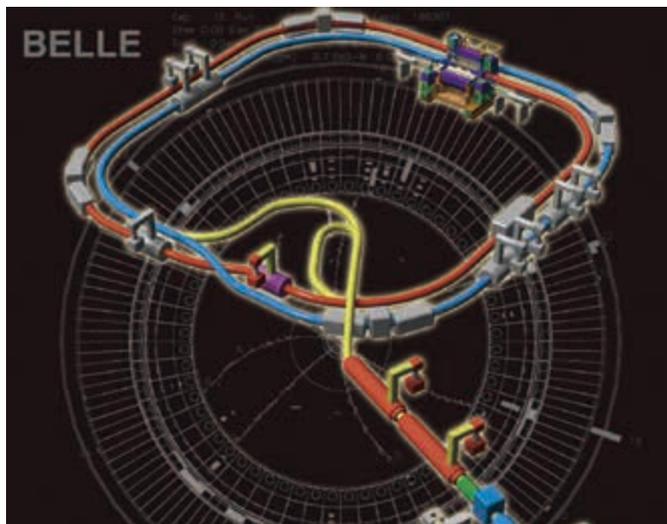
例えばTVのニュースや新聞で、ハワイで活躍中の世界一の大型望遠鏡「すばる」や南極に向かう観測船「しらせ」などのことを耳にしたことがありませんか。「すばる」は総研大を構成している国立天文台が建設したものですし、「南極観測」は同じく国立極地研究所が行っています。

研究活動の多くは非常に基礎的であるとともに大規模な施設等を要し、莫大な投資を必要とします。そのため、予算や研究効率等の面から大規模な研究活動に必要な人材や研究資金等を重点的に投入し、独創的で最先端の研究を行っています。



研究現場での高度専門教育と広い視野を養う総合教育

本学の博士課程は、日本が世界に誇るトップレベルの研究機関(大学共同利用機関等)が保有する大型または特殊な実験・観測施設あるいは学術的に価値のある資料やデータ等を授業に直接活用するとともに、国際的な研究拠点として第一線で活躍する国内外からの多数の研究者集団と日常的に接触できる理想的な教育研究環境にあります。また、教員スタッフは、学生1人に対して教員2~3人を擁しており、本学は高度の専門教育と広い視野を養う総合教育をカスタムメイド的に実施します。



総合研究大学院大学に参加する大学共同利用機関

①国立大学法人 総合研究大学院大学

本部(葉山キャンパス)
学融合推進センター
学術情報基盤センター
附属図書館
生命共生体進化学専攻(先端科学研究科)
〒240-0193
神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)
電話 046(858)1500(代表)
電話 046(858)1595(専攻担当係)
<https://www.soken.ac.jp>

②大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館
地域文化学専攻・比較文化学専攻
(文化科学研究科)
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06(6876)2151(代表)
電話 06(6878)8236(専攻担当係)
<http://www.minpaku.ac.jp>

③大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国際日本文化研究センター
国際日本研究専攻(文化科学研究科)
〒610-1192
京都府京都市西京区御陵大枝山町 3-2
電話 075(335)2222(代表)
電話 075(335)2052(専攻担当係)
<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>

④大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館
日本歴史研究専攻(文化科学研究科)
〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117
電話 043(486)0123(代表)
電話 043(486)6473(専攻担当係)
<http://www.rekihaku.ac.jp>

⑤大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館
日本文学研究専攻(文化科学研究科)
〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3
電話 050(5533)2900(代表)
電話 050(5533)2915(専攻担当係)
<http://www.nijl.ac.jp>

⑥大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

分子科学研究所
構造分子科学専攻・機能分子科学専攻
(物理科学研究科)
<https://www.ims.ac.jp/>

⑦大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

基礎生物学研究所
基礎生物学専攻(生命科学研究所)
<http://www.nibb.ac.jp>

⑧大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

生理学研究所
生理科学専攻(生命科学研究所)
<http://www.nips.ac.jp>
〒444-8585
愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38
電話 0564(55)7000(代表)
電話 0564(55)7139(専攻担当係)

⑨大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

国立天文台
天文学専攻(物理科学研究科)
〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
電話 0422(34)3600(代表)
電話 0422(34)3659(専攻担当係)
<http://www.nao.ac.jp>

⑩国立天文台 水沢 VLBI 観測所

〒023-0861 岩手県奥州市水沢区星ガ丘町 2-12
電話 0197(22)7111(代表)

⑪国立天文台 野辺山宇宙電波観測所

〒384-1305
長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2
電話 0267(98)4300(代表)

⑫国立天文台 岡山天体物理観測所

〒719-0232
岡山県浅口市鴨方町本庄 3037-5
電話 0865(44)2155(代表)

⑬国立天文台 ハワイ観測所

650 North A'ohoku Place, Hilo, Hawaii 96720
U.S.A.
電話 1-808-934-7788(代表)

⑭国立天文台 チリ観測所

Calle Joaquin Montero 3000, Oficina 702,
Vitacura, Santiago, Chile
電話 56-2-2656-9253

⑮大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

核融合科学研究所
核融合科学専攻(物理科学研究科)
〒509-5292 岐阜県土岐市下石町 322-6
電話 0572(58)2222(代表)
電話 0572(58)2042(専攻担当係)
<http://www.nifs.ac.jp>

⑯国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

宇宙科学研究所
宇宙科学専攻(物理科学研究科)
〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1
電話 042(759)8012(専攻担当係)
<http://www.isas.jaxa.jp/sokendai/>

⑰大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

(つくばキャンパス)
加速器研究施設・共通基盤研究施設
加速器科学専攻
(高エネルギー加速器科学研究科)
物質構造科学研究所
物質構造科学専攻
(高エネルギー加速器科学研究科)
素粒子原子核研究所
素粒子原子核専攻
(高エネルギー加速器科学研究科)
〒305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1
電話 029(864)1171(代表)
電話 029(864)5128(専攻担当係)
<http://www.kek.jp>

⑱大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

(東海キャンパス)
〒319-1106 茨城県那珂郡東海村大字白方 203-1

⑲大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所
統計科学専攻(複合科学研究科)
〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3
電話 050(5533)8500(代表)
電話 050(5533)8513-8514(専攻担当係)
<http://www.ism.ac.jp/>

⑳大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立極地研究所
極域科学専攻(複合科学研究科)
〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3
電話 042(512)0608(代表)
電話 042(512)0613(専攻担当係)
<http://www.nipr.ac.jp>

㉑国立極地研究所 昭和基地

極域科学専攻(複合科学研究科)

㉒大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所
情報学専攻(複合科学研究科)
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター
電話 03(4212)2110(専攻担当係)
<http://www.nii.ac.jp>

㉓大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立遺伝学研究所
遺伝学専攻(生命科学研究所)
〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
電話 055(981)6707(代表)
電話 055(981)6720(専攻担当係)
<https://www.nig.ac.jp>





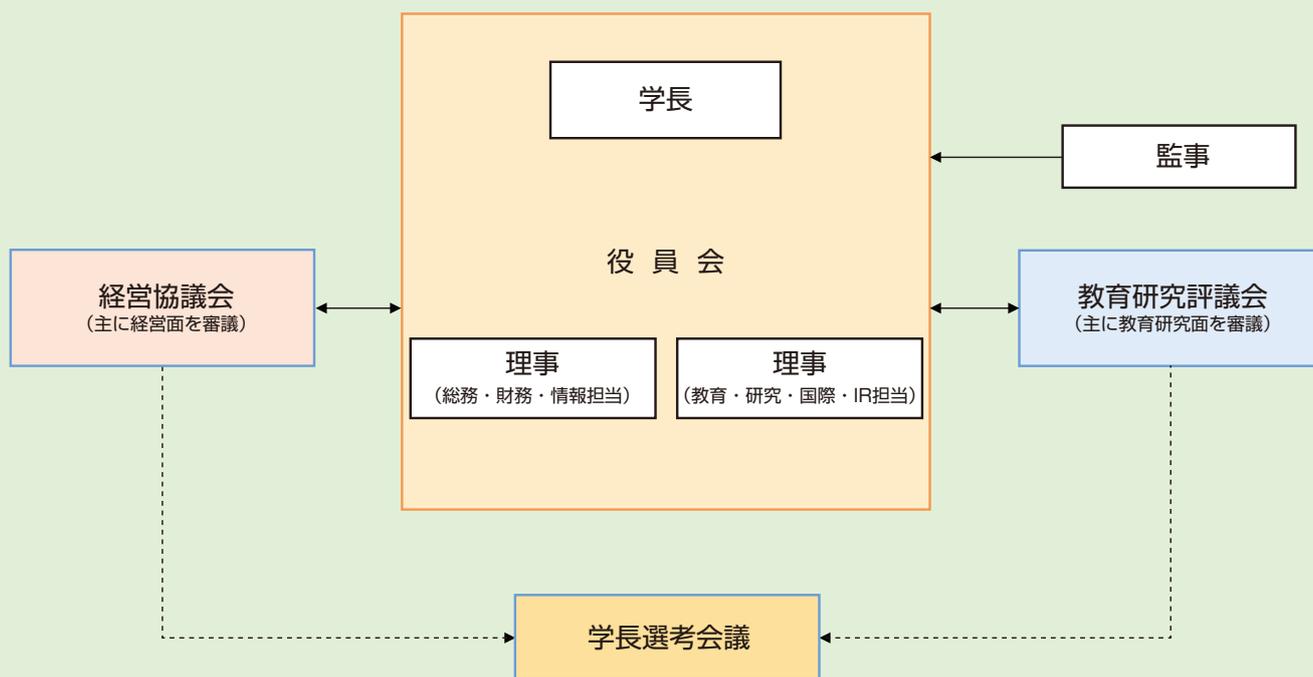
沿革

1982(昭57)年6月	国立大学共同利用機関所長懇談会が「国立大学共同利用機関における大学院の設置について」を要望	1999(平11)年4月	文化科学研究科に日本歴史研究専攻、数物科学研究科に素粒子原子核専攻設置・学生受入、先導科学研究科学生受入
1986(昭61)年4月	国立大学共同利用機関所長懇談会が「大学院問題に関するワーキング・グループ」での検討結果に基づき「総合研究大学院大学の基本構想について」を取りまとめ 岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備調査室及び同創設準備調査委員会を設置	6月	先導科学研究科棟竣工
1987(昭62)年3月	総合研究大学院創設準備調査委員会が「総合研究大学院の基本構想」を取りまとめ	2001(平13)年4月	3代学長に小平桂一(理学博士)就任 文化科学研究科にメディア社会文化専攻設置、学生受入
5月	岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備室及び同創設準備委員会を設置	7月	葉山キャンパスにおいて図書館棟(1,427㎡)着工
7月	総合研究大学院創設準備委員会が「総合研究大学院大学(仮称)の創設準備について—中間まとめ—」を取りまとめ	2002(平14)年2月	図書館棟竣工
1988(昭63)年4月	岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院大学創設準備室及び同創設準備委員会を設置	4月	数物科学研究科に情報学専攻設置、学生受入
5月	本学の設置を規定した「国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和63年法律第67号)」公布、施行	2003(平15)年4月	文化科学研究科に日本文学研究専攻、数物科学研究科に宇宙科学専攻設置、学生受入
9月	総合研究大学院大学創設準備委員会が「総合研究大学院大学の創設準備について」を取りまとめ	10月	「国立大学法人法(平成15年法律第112号)」公布、施行
10月	総合研究大学院大学開学 大学本部は東京工業大学長津田キャンパス内に設置	2004(平16)年4月	国立大学法人総合研究大学院大学発足 学長に小平桂一(理学博士)就任
	数物科学研究科		数物科学研究科を物理科学研究科(構造分子科学専攻、機能分子科学専攻、天文科学専攻、核融合科学専攻、宇宙科学専攻)、高エネルギー加速器科学研究科(加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻)、複合科学研究科(統計科学専攻、極域科学専攻、情報学専攻)の3研究科に改組、数物科学研究科を廃止
	・統計科学専攻	生命科学研究所	生命科学研究所を博士後期課程から博士後期課程を併設した5年一貫制博士課程に改組、学生受入
	・加速器科学専攻	・遺伝学専攻	教育研究交流センター及び教育研究情報資料センターを統合し、葉山高等研究センターに改組
	・放射光科学専攻	・分子生物機構論専攻	2005(平17)年4月
	・構造分子科学専攻	・生理科学専攻	生命科学研究所分子生物機構論専攻を基礎生物学専攻に名称変更
	・機能分子科学専攻		2006(平18)年4月
	(学生受入は平成元年4月)		物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科を博士後期課程から博士後期課程を併設した5年一貫制博士課程に改組、学生受入
	初代学長に長倉三郎(理学博士)就任		2007(平19)年4月
1989(平元)年4月	文化科学研究科(地域文化化学専攻、比較文化化学専攻)を設置 3研究科学生受入		先導科学研究科の生命体科学専攻、光科学専攻(博士後期課程のみ)を、生命共生体進化学専攻(博士後期課程)を併設した5年一貫制博士課程)に改組、学生受入
1991(平3)年4月	教育研究交流センター設置		2008(平20)年4月
1992(平4)年4月	文化科学研究科に国際日本研究専攻、数物科学研究科に天文科学専攻及び核融合科学専攻設置、学生受入		4代学長に高畑尚之(理学博士)就任
1993(平5)年4月	数物科学研究科に極域科学専攻設置、学生受入		2009(平21)年4月
1994(平6)年2月	神奈川県庁の斡旋により、三浦郡葉山町に本部用地(27,000㎡)を(株)三井不動産から寄附により取得		メディア社会文化専攻の学生募集停止
3月	葉山キャンパスにおいて本部共通棟(4,205㎡)着工	2010(平22)年3月	葉山キャンパスにおいて学融合推進センター棟(1,033㎡)着工
6月	教育研究情報資料センター設置	4月	葉山高等研究センターを学融合推進センターに名称変更
1995(平7)年2月	大学本部は葉山キャンパスに移転、本部共通棟竣工	2011(平23)年1月	学融合推進センター棟竣工
4月	2代学長に廣田榮治(理学博士)就任	2013(平25)年4月	情報基盤センターを設置
1997(平9)年4月	先導科学研究科(生命体科学専攻)を設置 (学生受入は平成11年4月)	2014(平26)年4月	5代学長に岡田泰伸(医学博士)就任
1998(平10)年4月	先導科学研究科に光科学専攻設置 (学生受入は平成11年4月)	2015(平27)年7月	情報基盤センター及び附属図書館を統合し、学術情報基盤センターを設置
	数物科学研究科放射光科学専攻を物質構造科学専攻に名称変更	2017(平29)年3月	メディア社会文化専攻を廃止 (専攻設置期間：平成13年4月1日～平成29年3月31日)
9月	葉山キャンパスにおいて先導科学研究科棟(3,060㎡)着工	4月	6代学長に長谷川真理子(理学博士)就任

組織

運営組織

国立大学法人総合研究大学院大学



シンボルマーク



8つの円は、「八」の末広がりを含み、本学創設の理念に向かって一層発展することを意味しています。それぞれの円がつながっているのは、本学と基盤機関(大学共同利用機関等)との緊密な関係・協力を意味しています。

円は調和を意味し、外周の円の内側半分が内の円に向かっているのは、大学としての一体性を確保するとともに基盤機関の伝統と独自性並びに国内外に開かれた運営上の特色を活かした高度の教育研究を行い、教育研究の総合性を発揮することを意味しています。

外周の円の外側半分が外に広がっているのは、新しい先導的学問分野の創造と展開、幅広い視野をもち、かつ独創性豊かな研究者が養成されることを期待しています。なお、本学のシンボルマークは商標登録を行っております。

モニュメント「COSMOS」 鈴木丘・作



「生命」が重要なテーマとなっているこのモニュメントは、植物の芽や兎の耳のような自然界を連想させるような彫刻で、触れた時には想像が無限に広がるようにタイトルの「COSMOS」には宇宙と花のコスモスの両方の意味を持っています。

教育研究組織

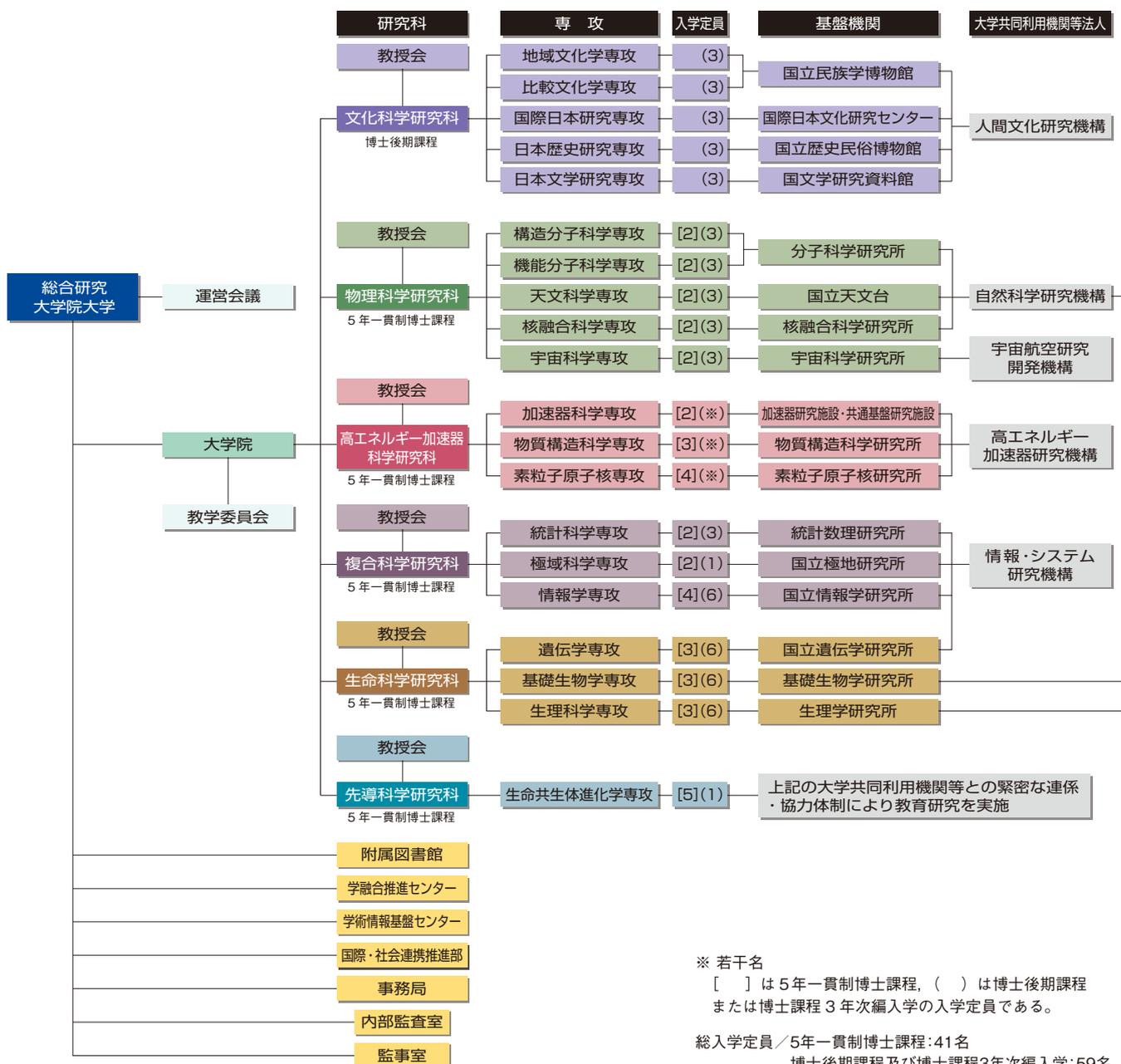
本学には、本学を構成している4つの大学共同利用機関法人が設置する17研究所等と国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の研究機関を基盤機関として、これら基盤機関を拠点に学問諸分野の高度で先端的な課題を中心に行う「分散型教育研究」と、大学全体として基盤機関の各専門分野を横断した教育研究を行う「総合型教育研究」があります。

本学は、6研究科20専攻を設置しており、先導科学研究科を除く5研究科は、各専攻が設置されている基盤機関がそれぞれ担当（分散型教育研究）し、学生は専攻が設置される機関で研究活動を実施します。

先導科学研究科は、大学本部（神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村）にあって、「進化学」と「科学と社会」に関する研究・教育を通して総研大の理念を達成することを目指す、生命共生体進化学専攻の単一専攻研究科です。大学本部が行う総研大専攻に向けた各種教育プログラムの運営にも協力しています。

学問の新たな進展に適確に対応するために、研究科や専攻を横断した新たな教育課程として「特別教育プログラム」を展開しています。また、総合型教育研究を支援するための全学共同教育研究組織として、学融合推進センターを設置しているほか、附属図書館及び学術情報基盤センターを設置しています。

■平成29年度教育研究組織



役職員

平成 29 年 4 月 1 日現在

学長 長谷川真理子
理事（総務・財務・情報） 中村 幸男
理事（教育・研究・国際・IR） 永田 敬
監事（事業） 武田 洋
監事（財務） 中元 文徳
(以上、法人役員)

副学長 永田 敬
学長補佐（広報社会連携・30周年事業担当） 田村 克己

■文化科学研究科

研究科長 山下 則子
地域文化学専攻長 齋藤 晃
比較文化学専攻長 平井京之介
国際日本研究専攻長 伊東 貴之
日本歴史研究専攻長 坂本 稔
日本文学研究専攻長 落合 博志

■物理科学研究科

研究科長 石川 毅彦
副研究科長 魚住 泰広
構造分子科学専攻長 青野 重利
機能分子科学専攻長 川合 眞紀
天文科学専攻長 林 正彦
核融合科学専攻長 竹入 康彦
宇宙科学専攻長 稲富 裕光

■高エネルギー加速器科学研究科

研究科長 小川雄二郎
副研究科長 宇野 彰二
副研究科長 神山 崇
加速器科学専攻長 本田 融
物質構造科学専攻長 河田 洋
素粒子原子核専攻長 橋本 省二

■複合科学研究科

研究科長 伊村 智
副研究科長 米田 友洋
統計科学専攻長 宮里 義彦
極域科学専攻長 本山 秀明
情報学専攻長 胡 振江

■生命科学研究科

研究科長 岩里 琢治
副研究科長 荒木 弘之
遺伝学専攻長 桂 勲
基礎生物学専攻長 山本 正幸
生理科学専攻長 井本 敬二

■先導科学研究科

研究科長 佐々木 顕
生命共生体進化学専攻長 蟻川謙太郎

■附属図書館

館長事務取扱 中村 幸男
副館長 柳生 修二

■学融合推進センター

センター長 颯田 葉子
副センター長 本郷 一美

■学術情報基盤センター

センター長事務取扱 中村 幸男

■本部業務組織

事務局長 日向野隆司
総務課長 小林 純
財務課長 前田 輝伸
学務課長 板場 直明
国際・社会連携課長 亀井 武志

教育研究評議会 平成29年4月1日現在

学長	長谷川真理子
理事（総務・財務・情報）	中村 幸男
理事（教育・研究・国際・IR）・副学長	永田 敬
文化科学研究科長	山下 則子
物理科学研究科長	石川 毅彦
高エネルギー加速器科学研究科長	小川雄二郎
複合科学研究科長	伊村 智
生命科学研究所長	岩里 琢治
先導科学研究科長	佐々木 顕
文化・地域文化学専攻長	齋藤 晃
文化・国際日本研究専攻長	伊東 貴之
文化・日本歴史研究専攻長	坂本 稔
文化・日本文学研究専攻長	落合 博志
物理・機能分子科学専攻長	川合 眞紀
物理・天文科学専攻長	林 正彦
物理・核融合科学専攻長	竹入 康彦
物理・宇宙科学専攻 教授	松原 英雄
高工・加速器科学専攻長	本田 融
高工・物質構造科学専攻長	河田 洋
高工・素粒子原子核専攻 教授	徳宿 克夫
複合・統計科学専攻長	宮里 義彦
複合・極域科学専攻長	本山 秀明
複合・情報学専攻長	胡 振江
生命・遺伝学専攻長	桂 勲
生命・基礎生物学専攻長	山本 正幸
生命・生理科学専攻長	井本 敬二
先導・生命共生体進化学専攻長	蟻川謙太郎
文化・比較文化学専攻 教授	吉田 憲司
文化・国際日本研究専攻 教授	小松 和彦
文化・日本歴史研究専攻 教授	久留島 浩
複合・統計科学専攻 教授	樋口 知之
複合・極域科学専攻 教授	白石 和行

経営協議会 平成29年4月1日現在

■ 学内代表者

学長	長谷川真理子
理事（総務・財務・情報）	中村 幸男
理事（教育・研究・国際・IR）・副学長	永田 敬
事務局長	日向野隆司

■ 学外有識者

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所長	常田 佐久
国立研究開発法人 科学技術振興機構日本科学未来館館長	毛利 衛
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構長	立本 成文
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構長	藤井 良一
東京理科大学研究推進機構総合研究院 教授	黒田 玲子
株式会社 資生堂 特別顧問	弦間 明
国立大学法人 名古屋大学 理事	郷 通子
国立大学法人 筑波大学 教授・執行役員	徳永 保
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構長	小森 彰夫
大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構長	山内 正則
多摩六都科学館 館長	高柳 雄一
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	
国立情報学研究所長	喜連川 優

文化科学研究科

人間の文化活動並びに人間と社会、技術及び自然との関係に係る総合的教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた高度な研究者及び高度な研究能力をもって社会に貢献する人材の育成を目的としています。

文化科学研究科とは

文化科学研究科は、総研大で唯一の文系の研究科です。国立民族学博物館を基盤とする地域文化学専攻・比較文化学専攻、国際日本文化研究センターを基盤とする国際日本研究専攻、国立歴史民俗博物館を基盤とする日本歴史研究専攻、国文学研究資料館を基盤とする日本文学研究専攻と、4つの基盤機関に5つの専攻が置かれています。

それぞれの機関において教育研究を行うだけでなく、文化科学研究科としても共同で活動を行っています。学術誌『総研大文化科学研究』の刊行、各機関持ち回りでの交流事業「総研大文化フォーラム」の開催、特別教育プログラム「学術資料マネジメントコース」の実施など、多彩な専門分野を活かして、総研大における文化科学研究を担い、発信しています。

なお、総研大の他の研究科は、博士課程前期（修士）の学生を受け入れる5年一貫制を採用していますが、文化科学研究科は、博士課程後期（博士）のみから成っています。

地域文化学専攻

Department of Regional Studies

本専攻は、国立民族学博物館が基盤機関となり、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ及びオセアニア等の地域に居住する人びとの文化や社会に関する研究教育を行っています。各々の文化のもつ特性や歴史性について考慮しながら、民族誌学的方法論に基づく文化の記述と構造の把握を目指します。現地調査から得られたデータを分析し、理論化を目指す、高度な研究能力を備えた人材を養成します。



ベトナム・サパの少数民族モン族（撮影 今井彬暁）
フィールド調査に基づいて研究を展開します

研究科に設置される 専攻分野

- ・ 地域文化学専攻
- ・ 比較文化学専攻
- ・ 国際日本研究専攻
- ・ 日本歴史研究専攻
- ・ 日本文学研究専攻



■ 研究科長 山下 則子
専門 日本近世文学、芸能、浮世絵



標本資料を用いた授業風景
約34万点の標本資料を利用できます

- 分野
- アジア地域文化研究
 - ヨーロッパ地域文化研究
 - アフリカ地域文化研究
 - アメリカ地域文化研究
 - オセアニア地域文化研究

お問い合わせ先：研究協力課研究協力係

E-mail: souken@idc.minpaku.ac.jp



比較文化学専攻

Department of Comparative Studies

本専攻は、比較社会、比較宗教、比較技術、比較言語、比較芸術、文化資源という6つの研究分野から構成されています。諸民族文化の比較研究により、各々に通底する普遍性の発見と理論的解明を目指します。基盤機関である国立民族学博物館の標本資料や映像音響資料、文献図書資料等を教育と研究に活かせることは本専攻の強みです。従来の文化人類学的研究方法に加えて、隣接諸科学の成果を導入し、新しい研究分野の開発を積極的に進めることができる人材を養成します。



国立民族学博物館の展示場

恵まれた教育研究環境のもとで、新しい研究分野の開発を行っています



モンゴルのカザフ人（撮影 八木風輝）

充実した研究支援を受けて、世界各地で調査します

分野

比較社会研究

比較言語研究

比較宗教研究

比較芸術研究

比較技術研究

文化資源研究

お問い合わせ先：研究協力課研究協力係

E-mail：souken@idc.minpaku.ac.jp

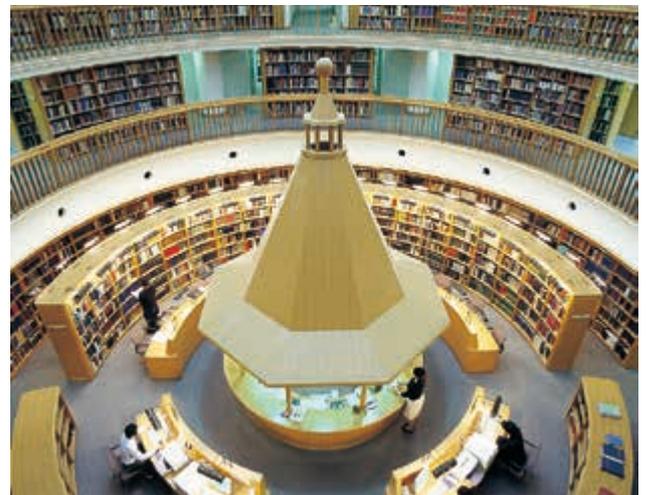


国際日本研究専攻

Department of Japanese Studies

人文科学・社会科学・自然科学にわたる国際的・学術的な日本研究（Japanese Studies）をすすめるために、「教育・研究指導分野」としては、本専攻の特色である全教員の指導による、単一の「国際日本研究」を設けています。

共通必修科目としては、「日本研究基礎論」「学際研究論」「論文作成指導」を置き、国際的な立場から「日本研究」の理論的・方法論的な指導を行っています。これらの研究と研究指導を推進することにより、創造的で高度な専門的視野と、幅広い学際性、複数の専攻を横断しうる総合性を備えた研究者の育成を目指しています。



国際日本文化研究センター 図書館

国内外を問わず、日本研究を行ううえで必要な図書・雑誌は「基本図書」として積極的に収集しています

講座

国際日本研究

〔教育・研究指導分野〕

国際日本研究／共通

お問い合わせ先：研究協力課研究支援係

E-mail：senkou@nichibun.ac.jp

日本歴史研究専攻

Department of Japanese History

国立歴史民俗博物館を基盤機関とする本専攻は、歴史学・考古学・民俗学、自然科学を含めた関連諸学を専門とする研究者が学際的な視点からの、実地調査を含む研究指導を行っています。本専攻の最大の特徴は、歴博の収蔵資料、各種の有形・無形の資料情報を研究に活用することができること、自然科学的な分析を行うために整備された高度な研究設備を利用できることです。日本の歴史と文化について、資料に基づいた高度な総合的分析能力をもつ研究者、また広い視野と国際的な感覚を持って社会に貢献できる人材の育成を目指します。

<http://www.rekihaku.ac.jp/> → 「大学院教育」



身近にある所蔵資料を利用した講義風景
約23万点の収蔵資料や各種の高度な研究設備を活用することができます

講座

日本歴史研究

[資料研究系]

歴史資料研究／資料論・展示研究／分析・情報科学

[社会史研究系]

社会論／技術史・環境史／地域文化論

基礎演習Ⅰ・Ⅱ／集中講義A・B・C

お問い合わせ先：研究協力課研究教育係

E-mail：soken@ml.rekihaku.ac.jp

日本文学研究専攻

Department of Japanese Literature

日本文学研究専攻の基盤機関である国文学研究資料館は、原本資料調査に基づいた、膨大な学術情報を集積・研究する先導的な大学共同利用機関です。当専攻では、それらの原典資料を活用しながら、専門的な調査技術と総合的な分析能力の修得を柱とする教育を行い、論文指導を通じて、自立した研究者を育成します。

個々の教員に指導を受けるばかりでなく、複数の教員による指導体制のもとに、体系的なカリキュラムによる教育を実施し、幅広い視野と国際的な感覚を持ち、社会に貢献できる研究者の育成を目指しています。



国文学研究資料館閲覧室
20万点の原典・マイクロ資料を備える充実した教育研究環境です

講座

日本文学研究

[教育・研究指導分野]

共通科目／文学資源研究／文学形成研究／文学環境研究

お問い合わせ先：総務課研究支援室教育支援係

E-mail：edu-ml1@nijl.ac.jp

物理科学研究科

物質、宇宙、エネルギーに関する物理及び化学現象を対象とした学問分野において、広い視野を備え世界の第一線で活躍する研究者及び高度の専門知識をもって社会に貢献する人材の育成を目的としています。

物理科学研究科とは

物理科学研究科では、物質、宇宙、エネルギー、生命の物理科学に関する教育研究活動を行っています。研究科を構成する5つの専攻は、分子科学研究所、国立天文台、核融合科学研究所、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所の4つの大学共同利用機関等に置かれており、そこでは、通常の大学では持つことが困難な特殊装置や大型装置が設置され、大規模研究プロジェクトや国際的に最先端の研究プロジェクトが数多く推進されています。各機関では客員教員、博士研究員、留学生など多くの外国人研究者を受け入れ、国際的環境にもあふれています。このような優れた研究環境の下で、学生達は物理科学のフロンティアを体感し、未来の科学を自らの手で創造する気概を持って勉学研究にいそんでいます。

本研究科では、1人の学生に2人以上の教員が付く複数教員指導体制を取っており、マンツーマンの生きた研究指導が行われます。また、リサーチ・アシスタント（RA）制度、准研究員制度による学生への経済的支援も充実し勉学研究に集中できる環境が整っています。多くの意欲にあふれた学生諸君が本研究科に入学し、物理科学の未来を担う研究者として育てゆくことを期待します。



構造分子科学専攻

Department of Structural Molecular Science

詳細な構造解析から導かれる分子および分子集合体の実像から物質の静的・動的性質を明らかにすることを目的として教育・研究を一体的に行います。従来の分光学的および理論的な種々の構造解析法に加え、新しい動的構造の検出法や解析法を用いる総合的構造分子科学の教育・研究指導を積極的に推進します。



X線光電子分光による物性解析
不安定化合物のX線光電子分光による物質の電子状態解析と物性評価

研究科に設置される 専攻分野

- ・ 構造分子科学専攻
- ・ 機能分子科学専攻
- ・ 天文科学専攻
- ・ 核融合科学専攻
- ・ 宇宙科学専攻



■ 研究科長 石川 毅彦
専門 微小重力科学

講座

電子構造学

[教育・研究指導分野]

理論化学 / 構造光分子科学 / 基礎電子化学 / 極端紫外光分光学

物質化学

[教育・研究指導分野]

物性化学 / 構造物性科学 / 構造生体分子科学 / 錯体物性化学

お問い合わせ先：国際研究協力課大学院係

E-mail : r7139@orion.ac.jp



機能分子科学専攻

Department of Functional Molecular Science

物質の持つ多種多様な機能に関して主として原子・分子レベルでその発現機構を明らかにし、さらに分子および分子集合体の新しい機能の設計、創製を行うことを目的として教育・研究を一体的に行います。新規な機能測定法や理論的解析法の開発を含む機能分子科学の教育・研究指導を積極的に推進します。



新奇有機化合物合成
お椀型バッキーボール分子スマネンの化学

講座

分子動力学

[教育・研究指導分野]

機能分子基礎理論／機能生体分子科学／生体分子科学／
錯体触媒化学

電子動力学

[教育・研究指導分野]

量子動力学／光化学／光物理／機能物性科学

お問い合わせ先：国際研究協力課大学院係

E-mail：r7139@orion.ac.jp



天文科学専攻

Department of Astronomical Science

世界最先端の観測装置やスーパーコンピュータを有する研究環境の下で、天文学および関連する分野の観測的・理論的、また装置開発に関わる研究を通じ、世界第一線で活躍できる研究者、先端技術の発展を担う専門家、および高度な専門知識を背景に科学の普及に努める人材の育成を目的とします。



ハワイ島マウナケア山頂のすばる望遠鏡

講座

光赤外線天文学系講座

[教育・研究指導分野]

地上天文観測／光・赤外線望遠鏡システム／惑星／
太陽・恒星・星間物質／銀河・宇宙

電波天文学系講座

[教育・研究指導分野]

地上天文観測／電波望遠鏡システム／
太陽・恒星・星間物質／銀河

共通基礎天文学系講座

[教育・研究指導分野]

精密計測／大気圏外観測／天文情報数値解析／
地球・惑星・太陽／銀河・宇宙

お問い合わせ先：研究推進課大学院教育支援室

E-mail：daigakuin@nao.ac.jp



核融合科学専攻

Department of Fusion Science

未来のエネルギーといわれる核融合エネルギーの開発には、プラズマに関する実験・理論の両面からの研究が相互補完的に行われる必要があります。本専攻では、核融合科学の発展を目指して、核融合プラズマの実験を推進するために必要な実験法及び工学的応用技術に関する研究指導と、プラズマの複雑な挙動を解明するために必要なシミュレーション研究を中心とする研究指導を行います。



大型ヘリカル装置(LHD)

講座

核融合システム

[教育・研究指導分野]

核融合システム・装置工学／プラズマ制御／プラズマ加熱／プラズマ計測

核融合シミュレーション

[教育・研究指導分野]

プラズマシミュレーション／粒子シミュレーション／磁気流体シミュレーション

お問い合わせ先：研究支援課大学院連携係

E-mail：daigakuin@nifs.ac.jp



宇宙科学専攻

Department of Space and Astronautical Science

本専攻では、宇宙物理学、太陽系科学、そして宇宙工学に関する理論研究、観測データの解析、および研究開発の実践を通じて高度な教育研究指導を行います。それらの分野の主な特徴は以下の通りです。

- 宇宙物理学：宇宙空間からの観測に基づき、宇宙の起源と構造、およびその進化を探る。
- 太陽系科学：太陽系の「今と過去」を観測し、多様性の成因、さらに生命の材料や環境の起源・進化の理解へと迫る。
- 宇宙工学：宇宙物理学、太陽系科学における挑戦的活動を可能にし、宇宙開発の将来的発展を切り開く。

更に、最先端かつ大規模な宇宙プロジェクトに身近に接することで、宇宙科学の豊かな学識のみならず宇宙プロジェクトの立案能力が涵養されます。



小惑星探査機「はやぶさ2」
小惑星に人工クレーターを作り、そこにタッチダウンする想像図。
©池下章裕

講座

宇宙探査理工学

[教育・研究指導分野] 宇宙探査理工学

宇宙観測科学

[教育・研究指導分野]

飛翔体天文学／飛翔体太陽系科学

宇宙工学

[教育・研究指導分野] 宇宙工学

お問い合わせ先：科学推進部大学院担当

E-mail：sokendai@ml.jaxa.jp

高エネルギー加速器科学研究科

本研究科は高エネルギー加速器を用いて、自然界の各階層に存在する物質の構造・機能及びその原理を解明する実験的研究及び理論的研究、並びに加速器及び関連装置の開発研究を行い、自然科学の進展に寄与するとともに、社会に貢献する人材の育成を目的としています。

高エネルギー加速器科学研究科とは

高エネルギー加速器科学研究科には加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻の三専攻が属し、それぞれの専攻は高エネルギー加速器研究機構（KEK）の加速器研究施設（および共通基盤研究施設）、物質構造科学研究所そして素粒子原子核研究所を基盤機関としています。

素粒子原子核専攻では、加速器を使用した素粒子原子核実験に参加することや理論研究を展開することで、宇宙の成り立ちや物質の究極の構造や原理について学び研究します。物質構造科学専攻では、分子や結晶構造などから生命体など多彩な形態で存在する種々の物質について、原理から応用までを含んだ幅広い立場から学び研究します。加速器科学専攻では、以上の研究を遂行するために必須な、陽子、電子・陽電子、ニュートリノ、X線、中性子、ミュオンなどの各種量子ビームを生成する高エネルギー加速器および関連する装置や技術について学び研究します。

本研究科では、KEKで遂行される研究活動を基礎に、全専攻が緊密に協力して幅広い分野の大学院教育を展開し、新しい時代の研究者養成を期しています。

研究科に設置される専攻分野

- ・ 加速器科学専攻
- ・ 物質構造科学専攻
- ・ 素粒子原子核専攻



■ 研究科長 小川 雄二郎
専門 加速器科学

加速器科学専攻

Department of Accelerator Science

究極の物質探求装置「加速器」を科学する

高エネルギー加速器は、最も単純な素粒子・原子核から原子・分子そして複雑精妙な生命体に至る、自然界の各階層のさまざまな構成要素を探究する強力な道具です。さらに近年、産業や医療分野など直接人々の役に立つ分野での活躍も目覚ましく進展しています。本専攻では、加速器性能の向上を通じた自然科学の推進を主目標に、加速器の原理研究や先端的加速器技術の開発など、理論・実験両面から加速器教育を実施します。あわせて、密接に関連する放射線科学、コンピュータ・サイエンス、超伝導技術、機械工学などの教育および研究を通じて、加速器科学の将来を中心的に担う人材の総合的育成を行います。



先端加速器試験装置（ATF）

講座 加速器科学

[教育・研究指導分野]

ビーム物理学／ビーム開発／加速器計画と設計／加速器基礎技術／磁場の科学／高周波加速の科学／真空の科学／コンピュータ・サイエンス／放射線の科学／加速器開発のための機械工学

お問い合わせ先：研究協力課大学院教育係

E-mail：kyodo2@mail.kek.jp



物質構造科学専攻

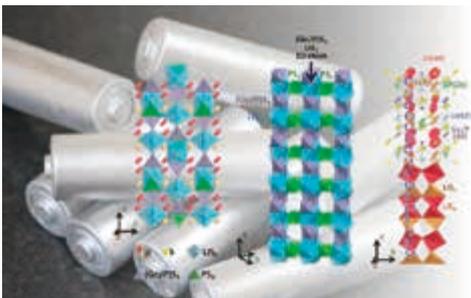
Department of Materials Structure Science

放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子が拓くナノの世界

大型加速器から発生する放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子の4つのビームプローブを用いて、物理・化学・生物・医学などの様々な分野にわたる物質構造科学研究を行います。とりわけ、世界最先端のビームの発生と加工に関する学理と応用開発研究、これらのビームプローブを用いた物質構造と機能に関する基礎と先進的応用の研究を行い、物質構造科学研究の将来を担い、またその発展に貢献する人材の養成を目指します。



放射光を用いたタンパク質の立体構造解析実験



東工大とトヨタ自動車が開発した世界最高のリチウムイオン伝導率を示す $\text{Li}_{10}\text{GeP}_2\text{S}_{12}$ の結晶構造を放射光と中性子で決定した。左から全体の結晶構造、骨格構造、リチウムイオン伝導経路を示す。右図上部からリチウムイオンが上下方向に非常に大きく熱振動していること、リチウムが超イオン伝導に関与していることが読み取れる。

講座

物質構造科学

[教育・研究指導分野]

放射光科学／放射光物質構造科学／
中性子ミュオン科学

お問い合わせ先：研究協力課大学院教育係

E-mail：kyodo2@mail.kek.jp

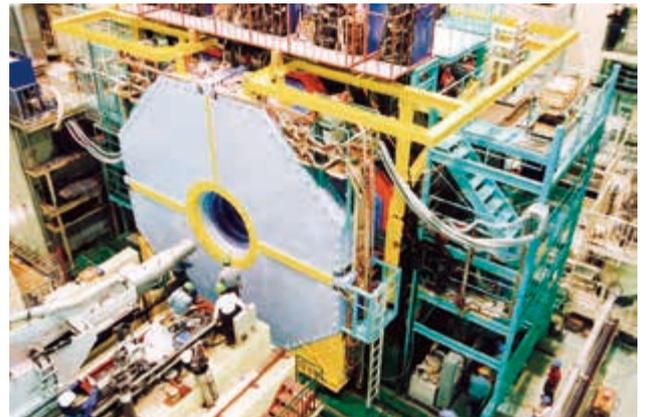


素粒子原子核専攻

Department of Particle and Nuclear Physics

宇宙と物質の謎にせまる

素粒子原子核物理学は、物質の究極の構成要素とそれらに働く力を明らかにしようとする学問です。本専攻は、エネルギーフロンティアを目指す実験から、大強度粒子ビームを使った精密測定によって素粒子・原子核の性質を明らかにする実験にいたる世界をリードする多彩な実験と、宇宙から超弦理論までを広くカバーする理論研究を背景に、これらの分野をリードする研究者の養成を目指しています。宇宙と物質の謎を解き明かす世界最先端の研究に参加してみませんか。



運転開始を控えて準備が大詰めを迎えた
SuperKEKB加速器とBelle II測定器 ©KEK

講座

素粒子原子核理論

[教育・研究指導分野]

素粒子基礎理論／素粒子現象論／格子ゲージ理論／ハドロン原子核理論／宇宙物理理論

素粒子原子核実験

[教育・研究指導分野]

Bファクトリー／ハドロンコライダーエネルギーフロンティア／レプトンコライダーエネルギーフロンティア／ニュートリノ物理学／K中間子稀崩壊／ミュオン稀過程／ミュオン精密測定／原子核／不安定核／中性子基礎物理／実験的宇宙論／ビームダイナミクス／超伝導低温工学／計測システム技術

お問い合わせ先：研究協力課大学院教育係

E-mail：kyodo2@mail.kek.jp

複合科学研究科

地球、環境、社会等人間社会の変容に関わる重要課題を対象とした横断型の教育研究を行い、情報とシステムの観点からこれら課題の解決に貢献する研究能力又は研究開発能力を備えた次世代を担う研究者及び高度専門家の育成を目的としています。

複合科学研究科とは

複合科学研究科では、複雑な自然現象、社会現象やその発現・機能・相互作用等を司るシステムについて、総合的あるいは分野横断的な視点から教育研究を行います。そして、そのことを通じて21世紀における人間社会の変容に関わる様々な重要課題に対して、情報とシステムの観点に立脚する学術研究を担ってゆく研究者や高度専門家の育成をめざしています。研究科を構成する統計科学、極域科学、情報学の各専攻は、本来、各々が横断型の研究分野を担っていますが、本研究科では、共通科目を設定するなど、これら専攻が緊密に連携することによって、教育研究の一層の充実を図っています。

研究対象は多岐にわたりますが、総合科学としての理念、研究におけるアプローチ、方法論は本研究科の根幹として共通するものです。そして、統計科学、情報学では、種々の事象に通底する蓋然性や複雑性を統計数理と情報によって解明し、また極域科学は地球の特異点たる極地での地球物理と生物の複雑系を総合科学として解き明かして行きます。こうした教育研究を通じて、さらに新たで、かつ、先導的先進的な研究領域を融合しつつ体系化することにより、複合科学の一層の展開を志向しています。



統計科学専攻

Department of Statistical Science

複雑な対象、氾濫する情報と不確実性のもと、データによる合理的な推論、有効な予測、新知見の発見のための統計モデルや統計的方法を研究するのが統計科学です。

本専攻では、基盤機関である統計数理研究所の恵まれた研究環境を活用して、現実世界からデータに基づいて情報ないし知識の抽出を実現するために、モデリング、予測、推論、データ収集の設計及びこれらの基礎、数理、計算、応用に係る教育研究を行い、複雑に相互に絡み合うさまざまな重要課題の解決に貢献する独創性豊かな研究能力を備えた人材の育成を目的としています。



可視化システム
(Visualization System)

研究科に設置される 専攻分野

- ・統計科学専攻
- ・極域科学専攻
- ・情報学専攻



■研究科長 伊村 智
専門 生態学

講座

統計科学

[教育・研究指導分野]

モデリング／データ科学／数理・推論

お問い合わせ先：研究支援担当チーム

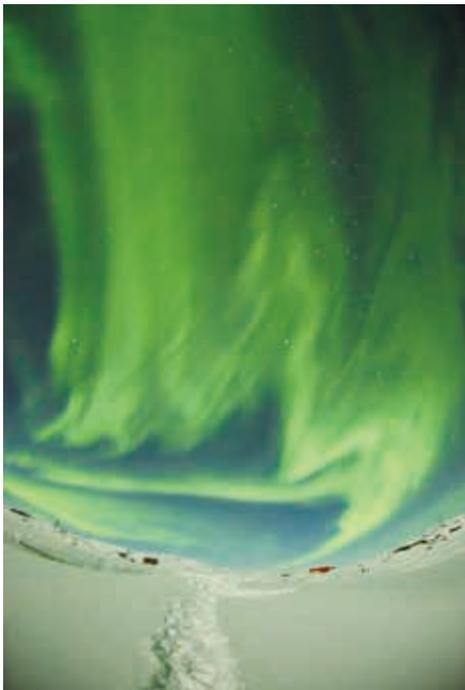
E-mail : kenkyo@ism.ac.jp



極域科学専攻

Department of Polar Science

地球は太陽系唯一の水惑星であり、人類始め多種多様な生命体が生息しています。この惑星において人類が持続ある発展を願うとき、地球の成り立ちや環境をより良く理解する必要があります。近年、宙空圏、気水圏、地圏及び生物圏の変動現象が、両極域において特徴的な現れ方をすることがわかって来ました。それら変動の個々の素因と複雑な相互作用を地球システム全体のなかで究明することが極域科学の目的です。極域科学はフィールドサイエンスの要素がとても強く、研究遂行のための具体的方法についての教育・研究を重視しています。そして、幅広い地球科学研究に柔軟に対応できる創造性豊かな研究者を養成します。



南極のオーロラ
(撮影 平成 22 年 3 月 修了 鈴木秀彦)

講座

極域科学

[教育・研究指導分野]

極域宙空圏／極域気水圏／極域地圏／極域生物圏

お問い合わせ先：総務担当チーム（学術振興担当）

E-mail：kyokuiki@nipr.ac.jp



情報学専攻

Department of Informatics

情報学（Informatics）は、情報に関する諸問題を広範かつ総合的に取り扱う新しい学問分野です。伝統的な情報科学・情報工学を中核としつつ、人間や社会を対象とする人文情報学・社会情報学をカバーする複合科学であり、情報の表現、収集、流通、管理、処理、利用、及びこれらを支える情報技術（IT）を包含しています。

本専攻では、国立情報学研究所の最先端の研究環境や学術情報基盤を活用し、多くの外国人研究者や留学生が集う国際色豊かな雰囲気の中で、基礎から実践まで幅広い能力と高度な専門性を身につけた研究者や高度専門家を養成します。



機械学習を用いた音声合成、音声認識及び対話管理によるNIIキャラクター“ビット君”との対話システム
(山岸順一 研究室)

講座

情報学

[教育・研究指導分野]

情報基礎科学／情報基盤科学／ソフトウェア科学／
情報メディア科学／知能システム科学／情報環境科学

お問い合わせ先：国際・教育支援チーム

E-mail：daigakuin@nii.ac.jp

生命科学研究科

生命現象を分子から個体、集団に至る様々なレベルで解明するための教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた次世代の生命科学研究を担う研究者の育成を目的としています。

生命科学研究科とは

生命現象を分子から個体、集団に至る様々なレベルで解明するための教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた次世代の生命科学研究を担う研究者の育成を目的としています。

生命科学研究科の大学院プログラムは生命科学の最前線を開拓する独立した創造力豊かな研究者の育成を目指しています。研究科を構成する専攻の基盤となっている3つの国際的に卓越した研究所（国立遺伝学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所）は生命科学の多様な分野の研究を推進しており、専攻の枠を超えた分野横断的な研究教育を目指しています。生命科学研究科は日本で最大数の生命科学系教員で構成されており、学生が複数の教員と相談しながら研究を進めることを可能とし、学生による独立した研究実施のために必要な研究環境を提供しています。各専攻所属の第一線の研究者による講義に加え、国内外の外部講師による最先端研究を紹介するセミナー、異分野融合の基礎となる教育プログラム、英語論文の書き方や英語での口頭発表・議論のための授業も含まれています。3専攻は毎年合同で研究発表会を開催して交流を深めているほか、インターネットを使った講義システムで他専攻の講義を聴講することも可能としています。生命科学を愛し、楽しみ、そして、その新しい扉を開く夢を持った学生を待っています。

研究科に設置される専攻分野

- ・ 遺伝学専攻
- ・ 基礎生物学専攻
- ・ 生理科学専攻



■ 研究科長 岩里 琢治
専門 神経科学、分子生物学

遺伝学専攻

Department of Genetics

遺伝学専攻は、生命現象を遺伝情報との関連の下に解明することを目的とし、国立遺伝学研究所に整備された多様な実験生物系統やDNAデータベースを活用して、分子遺伝学、細胞遺伝学、発生遺伝学、行動遺伝学、集団遺伝学、進化遺伝学、ゲノム生物学、生命情報学などの分野で、最先端の教育・研究を行います。また、大学院生が自ら「一人前の研究者に育つ」という目標を達成するため、「一人一人の大学院生を全教員で指導する」という理念のもとに大学院生教育を行っています。たとえば、独自の「プログレス制度」では、大学院生が指導教員以外の複数教員と議論し様々なアドバイスを受ける機会が、半年に1回提供されます。充実した科学英語教育プログラムやリサーチアシスタント制度などによる経済支援も遺伝学専攻の大きな特長です。



恵まれた環境で自分自身の研究に思う存分に打ち込むことができます。



研究室では活発な議論が行われています。

講座
分子・細胞遺伝学
発生遺伝学
進化情報遺伝学
ゲノム遺伝学

お問い合わせ先：総務企画課 総務・教育チーム

E-mail：info-soken@nig.ac.jp

基礎生物学専攻

Department of Basic Biology

基礎生物学研究所を基盤機関とする本専攻は、次世代の生物学を担う研究者を養成します。細胞の構造・機能・増殖・分化、光合成、発生、行動に関わる脳神経のしくみ、環境に対する生体の応答、生物間の共生、進化などの諸問題について、様々なモデル生物・非モデル生物を活用し、分子生物学、数理生物学、オミクスやバイオイメーキングなどの最新実験技術を駆使して先端的研究を行っています。基礎生物学研究所の充実した研究設備と環境、複数の教員による指導体制、RA 制度による経済的サポート、EMBL（欧州分子生物学研究所）との国際交流事業など、特色ある修学環境を用意しています。意欲あふれる皆さんの参加をお待ちしています。



研究対象となっている様々なモデル生物たち

講座

細胞生物学
発生生物学
環境生物学
神経生物学
進化多様性ゲノム生物学
生殖発生学

お問い合わせ先：国際研究協力課大学院係

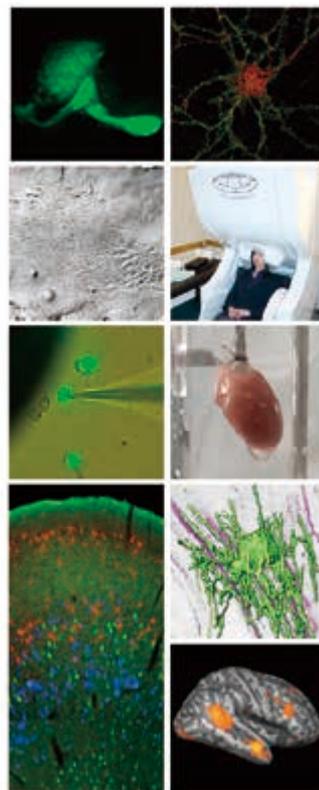
E-mail：r7139@orion.ac.jp

生理科学専攻

Department of Physiological Sciences

生理科学は、生体はたらく仕組みを分子・細胞などの構成要素とシステムの両面から解き明かす学問であり、病態の理解に重要な基盤を提供します。ゲノム構造が明らかになり、ますます生理科学の重要性は増しています。

本専攻では、生体の基本構造である分子レベルから細胞レベル、さらにシステムとして構成される個体レベルに至るまで、生体機能を統合的に研究できるように教育・研究指導を行っており、生理学・脳神経科学を中心とした医学・生命科学の未来を切り開く研究者を養成します。



研究対象の細胞、組織、臓器と実験方法

講座

分子細胞生理学
生体機能調節学
基盤神経科学
システム脳科学

お問い合わせ先：国際研究協力課大学院係

E-mail：r7139@orion.ac.jp

先導科学研究科

本学創設の理念及び目的に基づき、学融合により従来の学問分野の枠を超えた国際的な学術研究の推進及び学際的で先導的な学問分野の開拓を行い、国際的に通用する高度な専門性と広い視野を備えた人材の育成を目的としています。

先導科学研究科とは

先導科学研究科は、進化学と科学と社会分野の研究・教育を通して総研大の理念を達成することを目指す、生命共生体進化学専攻の単一専攻研究科です。進化学分野には、統合人類学、行動生物学、進化生物学、理論生物学の生物系4領域をおき、とくに生物の多様性と歴史性に焦点を当てています。一方、科学と社会分野では、科学を人間の社会活動のひとつととらえ、科学者の社会における役割や責任について深く探求しています。学生はそれぞれの専門分野で博士研究を行う一方、生物系の学生は社会分野の、社会系の学生は生物分野のテーマでそれぞれ副論文を書くことが求められます。分野間の垣根を徹底的に低くし、学生30名、教員20名が常に親密に交流することで密度の高い教育を実現しています。以って、人間・科学・社会に関する深くバランスのよい見識を備えた研究者・高度専門職業人を育成します。加えて、先導科学研究科は学融合推進センターと一体となって、総研大専攻に向けた各種教育プログラムを研究・運営しています。さらに、国内外の大学や研究機関と活発な共同研究を展開し、新しい研究領域の構築を先導することを目指しています。

研究科に設置される専攻分野

- ・生命共生体進化学専攻



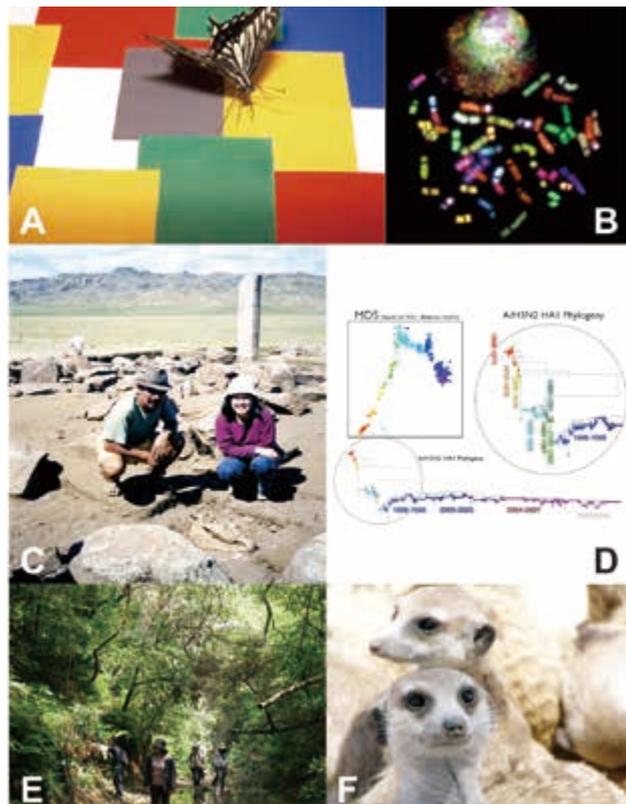
■研究科長 佐々木 顕
専門 数理生物学



生命共生体進化学専攻

Department of Evolutionary Studies of Biosystems

生命の誕生から38億年を経て、地球上にはきわめて多様な生物が棲息しています。進化は生物の歴史性と多様性を理解するための鍵であると同時に、生命の異なる階層をつなぐ概念を提供する理論です。私たち人間の営みも、その延長線上にあります。本専攻では、専門分野のみならず、生物学を広く見渡す総合力を養うとともに、現代の科学と社会の関わりを深く考察します。新しい生命観・人間観を切り開き、持続可能な社会の構築に国際的な舞台で活躍できる研究者・知識人を育てます。



A. カラーモンドリアン上で求蜜行動中のアゲハ B. マルチカラーFISH法による染色体像(カニクイザル; $2n=42$) C. モンゴルの遺跡で、出土したウマの骨を前に D. 数理モデルを用いたインフルエンザウイルスの進化予測 E. 森戸川での野外調査実習 F. 家族で群れを形成し、血縁個体間で様々な協力的行動を行うミーアキャット

分野

生命科学
統合人類学／進化生物学／行動生物学／理論生物学

科学と社会
科学と社会

お問い合わせ先：先導科学研究科事務係

E-mail : office_sendou@ml.soken.ac.jp

■特色ある教育プログラム

総研大では、高度の専門性・広汎な視野・国際性を備えた若手研究者を育成することを目的としています。学問の新たな進展に対応するため、研究科や専攻を横断した新たな教育課程として、特色ある教育プログラムを展開しています。

総合教育科目

◎総研大フレッシュマンコース

このプログラムは合宿型の集中講義として開講されているもので、普段会う機会の少ない他専攻の同期生や教員と知り合う貴重な機会を提供します。また研究者として身につけなければならない総研大の目指すところを伝えることで、充実した学生生活への指針を与えることを目的としています。

■平成28年度(前学期)

期 日：平成28年4月4日～4月7日
場 所：葉山キャンパス
参加者：学生61名、教員37名、計98名

■平成28年度(後学期)

期 日：平成28年10月3日～10月6日
場 所：葉山キャンパス
参加者：学生33名、教員16名、計49名



◎「科学と社会」教育プログラム

本学における重要な使命は、高い専門性と幅広い視野をもった研究者や専門的職業人を育成することにあります。そのような研究者や知識人の育成においては、科学研究を社会活動の一つとして捉えたうえで、専門性の違いの意味、科学研究を支える社会的基盤、研究活動の社会的意義やインパクトを考える機会が不可欠です。本プログラムではそのような問題意識から、「科学と社会」に関わる関連科目の開講、ならびにそれぞれの専門性に沿った議論の場の設計と提供を行っていきます。その一環として、年2回のフレッシュマンコースにおいて、1日半の「研究者と社会」の授業(講義とワークショップ)を日本語と英語で行っています。

インターンシップ

本事業は、本学の理念である深い専門性、国際通用性をそなえた研究者の育成を目的として、国内外の大学、研究機関、企業等において、将来のキャリア構築につながる共同研究活動や調査活動等に参加する本学学生に対して支援するものです。

平成28年度 派遣学生数：9名

派 遣 先：アメリカ、イギリス、イタリア、スイス、ドイツ、中国、フランス、神戸(国内)

脳科学専攻間融合プログラム

総研大は最先端の研究を行っている基盤機関をベースとして一流の研究者を養成するための大学院大学です。さらに、一つの分野のみではカバーしきれない広い領域を連携させ、新しい学問分野を切り拓いていくという使命を担っています。このような理念の実現のため、専攻を超えた教育システムの構築を行うモデルケースとして「脳科学」を取り上げ、生理科学専攻が中心となって、脳科学について関連する教育・研究を行っている総研大の他専攻(基礎生物学、遺伝学、情報学、統計科学、生命共生体進化学等)の協力を得て、新たなカリキュラムを作成して実施しています。すべての講義には遠隔講義システムを使用し、遠隔地での受講が可能となっています。広い範囲の専門分野の皆様からの積極的な参加を期待しています。

プログラム実施責任部局：脳科学専攻間融合プログラム委員会

統合生命科学教育プログラム

生命科学の分野では、前世紀末のゲノム科学の進展により、様々な生物種の膨大なゲノム情報が獲得されました。そのため、今世紀に入ってからは、ポストゲノムの流れの中で、網羅的蛋白質構造決定プロジェクト(タンパク3000)などのポストゲノムプロジェクトが推進されるとともに、プロテオミクスやバイオインフォマティクスなどの新しい学問も生まれてきました。このような現代的な生命科学の流れの中で、これからの生物学に寄与することの出来る研究者を育成するためには、生物学のみならず、物理科学、数理科学、情報科学などに通じる学際的かつ統合的な生命観を育てる大学院教育がなされなければなりません。本プログラムでは、国内最先端の研究機関において幅広い分野の大学院教育が行われているという総研大の特色を生かし、統合生命科学の新しいカリキュラムを作成・実施しています。

プログラム実施責任部局：統合生命科学教育プログラム委員会

学術資料マネジメント教育プログラム

本プログラムが提供する学術資料マネジメントコースは、多種多様な学術資料の読み取り手法、最先端の科学的手法を用いた分析、学術資料情報の記録と科学的保存管理、学術資料を通じた研究プレゼンテーションなど、先端的な学術資料に関する講義・演習等を通じ、文系理系を問わず研究者と必要な学術資料マネジメント能力を養成することを目的とした授業科目を提供します。

プログラム実施責任部局：学術資料マネジメント教育プログラム委員会

広い視野を備えた物理科学研究者を育成するためのコース別大学院教育プログラム

本プログラムは物理科学研究科と高エネルギー加速器科学研究科が合同で行う双方にまたがる教育プログラムで、物理科学の学問分野において高度の専門的資質とともに幅広い視野と国際的通用性を備えた、社会のニーズに答えることのできる研究者の育成を目指した教育を行っています。5年一貫制博士課程1～2年次における大学院基礎教育を充実させるとともに、5年一貫制博士課程3～5年次において学生をそれぞれの適性にに応じて4つのコース：基本コース、先端研究指向コース、プロジェクト研究指向コース(物理科学研究科のみ)、開発研究指向コース(物理科学研究科のみ)に分け、それぞれの目標に向けて重点的に教育を行います。

プログラム実施責任部局：物理科学コース別教育プログラム運営委員会

研究科合同セミナー

◇総研大文化フォーラム／文化科学研究科

平成28年12月10日～11日 国際日本文化研究センター

本フォーラムは総研大唯一の文系研究科である文化科学研究科が主催する公開の学術交流会であり、「文化」を共通の切り口として、さまざまな専門分野を持つ学内外の教員と学生の学際的な交流の機会を提供しています。

学術的な研究発表の場としても機能することから、本学学生の研究活動、成果そのものや、研究発表スキルを指導する教育的機能をも有し、文理に開かれた学術交流の場となっています。

また、学生が事業の企画運営に参画することにより、教員と学生企画委員の協働による事業運営を通じて、学生の企画力を活かしながら、事業運営のマネジメントにおいて教員が指導助言等のサポートを行うことにより、自立した研究者養成に繋げていきます。



◇物理科学学生セミナー／物理科学研究科・高エネルギー加速器科学研究科

平成29年1月12日～13日 高エネルギー加速器研究機構

物理科学研究科および高エネルギー加速器科学研究科が、コース別教育の一環として分野横断的に「物理科学学生セミナー」を実施しています。1年半毎に、1泊2日の日程で、8専攻で学ぶ学生と教員が集合し、学術的なセミナーを開催し、企画・運営は学生が中心となっており、8専攻の学生と教員の交流、学生の企画・運営力の向上を通じて、高度の研究的資質を持つ広い視野を備えた研究者の育成を目指しています。

また、異分野連携研究の開始のきっかけとなることも期待されています。



◇複合科学クロストーク／複合科学研究科・生命科学研究科(遺伝学専攻)



平成28年9月29日～9月30日 静岡県

情報・システム研究機構が主催する「若手研究者クロストーク」を複合科学研究科として共催し、複合科学研究科と遺伝学専攻を中心に、幅広い分野からの総研大の教職員・学生をあつめ、1泊2日の合宿形式でグループ討議を実施しています。

複数専攻の外国人を含む教職員・学生が一堂に会する場にて、グループ討議や異種の話題が並ぶ研究発表を体験することにより、高い専門性と広い視野並びに国際的通用性が徐々に醸成されていくことが期待されています。

◇生命科学リトリート／生命科学研究科・先導科学研究科

平成28年10月24日～10月25日 静岡県

生命科学リトリートは、総研大の生物学を主とする専攻の教員と学生が一堂に会し学術的交流を深める事で、生物学をより大きな視点で捉えこれからの生物学の発展に貢献できる人材の教育を目的としています。

会議を英語で行うことで、国際通用性の向上を図り、学生委員の企画と進行のもと、学生の研究発表(口頭、ポスター)と意見交換会を行っています。学生委員はプログラムの企画立案する事で企画力を養い、また学生の研究発表の練習の場としても機能する事が期待されています。



学融合推進センター

学融合推進センターは、全学に開かれた自由闊達な学術交流を行う本学の教育研究の拠点施設として、研究科・専攻を超えた学融合による学際的で先導的な学問分野を開拓することを目的とし、次の3つの事業を中心に異分野連繋的・社会連携的な教育研究活動を展開していきます。

詳しい情報はセンターのホームページをご覧ください。 <http://cpis.soken.ac.jp/>

学融合教育事業

◎学融合レクチャー

新たな学問領域の開拓や現代社会が抱える今日的な重要課題の解決に繋がる学問分野を横断するテーマ、専門分野を越えて本学の学生が受講することが望まれるテーマなど、「総研大の特色ある教育」の提供を目的に集中講義を開講し、本学の学生に専門分野を越えた広い視野を兼備する総合性を習得させる教育プログラムに対し支援を行うことを本事業の目的とします。

授業名：動物倫理学入門

担当：学融合推進センター 塚原 直樹

期日：平成28年7月23日～7月24日

場所：総研大葉山キャンパス

授業名：先端計測制御概論

担当：物理科学研究科 天文科学専攻 松尾 宏

期日：平成28年10月4日～10月7日

場所：国立天文台 野辺山宇宙電波観測所

授業名：大統合自然史 I (宇宙・地球編)

担当：学融合推進センター 鎌田 進

期日：平成28年7月25日、9月7日～9月9日

場所：遠隔授業(7月)、高エネルギー加速器研究機構、JAXA 筑波宇宙センター、産業技術総合研究所 地質標本館

授業名：基礎計測制御デジタル技術

担当：物理科学研究科 核融合科学専攻 中西 秀哉

期日：平成28年10月26日～10月28日

場所：核融合科学研究所(土岐キャンパス)

授業名：科学コミュニケーション

担当：生命科学研究所 基礎生物学専攻 倉田 智子

期日：平成28年8月8日～8月10日

場所：国立天文台 野辺山宇宙電波観測所

授業名：結晶の対称性・群論-基礎コース

担当：高エネルギー加速器科学研究科 物質構造科学専攻 神山 崇

期日：平成29年3月6日～3月10日

場所：高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパス

大統合自然史

平成27年度に開催された大統合自然史授業開発研究会では、「大統合自然史」という科目の全体構想や科目が追求する方向性などを議論してきました。平成28年度は、授業の実施を通じてより具体的な課題を検討するべく、学融合レクチャーとして「大統合自然史 I (宇宙・地球編)」の試行を企画、授業を実施しました(上掲)。実施を受けて、平成29年度に開催予定の「大統合自然史 II (生命・人類編)」に繋げる検討、さらに「生命・人類編」の内容について、より具体的な検討が行われています。



◎学生企画事業

本学の教育研究理念に基づき、広い視野を持ち、実践的な問題解決能力を持つ研究者を育成するため、本学学生が主体となり研究科の枠を越えて企画実施する交流事業や、研究会、勉強会等のプロジェクトについて提案を募集し、実施を支援しています。

テーマ：研究費の獲得に向けて

担当：先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 清古 貴

期日：平成28年9月19日

場所：TKPカンファレンスセンター

学融合研究事業

学融合推進センターでは本学の特性を活かした共同研究プロジェクトや従来の学術分野の枠に当てはまらない創造的な研究を推進するため、様々な研究支援活動を学融合研究事業と位置付けて実施しています。これまでの支援枠組みは、①学内公募型異分野連繫的共同研究プログラムの推進、②分野横断型学際研究の抽出検討(萌芽的研究会支援等)、③研究論文出版費助成の3つに分けられます。平成28年度には、具体的な公募型異分野連繫的共同研究プログラムとして、総研大が推進する「異分野連繫」「社会連携」「基盤機関連繫」「国際連携」の4つのキーワードを軸として、従来の学術分野の枠を超えた独創的、国際的な学術研究の推進、並びに社会に貢献する先導的学問分野の開拓を目的に、「グローバル共同研究」と「学融合共同研究」としてそれぞれ3年間、2年間の研究費の支援を行いました。本事業により採択された課題は、年に一度本学葉山キャンパスで開催される公開研究報告会にて研究成果の発表が行われます。

◎グローバル共同研究

平成28年度採択プロジェクト(1件)

- 1) 「失われた生態システムの多様性解明に向けた古代DNA研究の展開」
複合科学研究科 統計科学専攻 足立 淳 准教授(平成26年度採択・3年目)

◎学融合共同研究

平成28年度採択プロジェクト(7件)

- 1) 「社会と研究のインターフェースとしての展示に関する総合的研究」
文化科学研究科 地域文化学専攻 佐藤 浩司 准教授(平成27年度採択・2年目)
- 2) 「大型科学施設の連携で切り拓く表面の科学」
高エネルギー加速器科学研究科 加速器科学専攻 都丸 隆行 准教授(平成27年度採択・2年目)
- 3) 「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」
複合科学研究科 極域科学専攻 片岡 龍峰 准教授(平成27年度採択・2年目)

極域科学専攻、日本文学研究専攻などの共同研究です。既存の中国語文献データベースを用いたサーベイと日本語文献の画像検索による過去のオーロラ発生率・発生分布の研究により、市民参加型のオーロラ監視データの収集と公開を目的としています。研究成果による論文がプレスリリースとして発表され、様々なメディアに取り上げられています。(P.36参照)



- 4) 「動物福祉学に向けた文理融合研究 -ニワトリをモデルとして-」
生命科学研究所 基礎生物学専攻 新村 毅 助教(平成27年度採択・2年目)
- 5) 「動物が『見えない光』を受容するメカニズム-化学と生理学を融合したアプローチ-」
物理科学研究科 構造分子科学専攻 古谷 祐詞 准教授(平成27年度採択・2年目)
- 6) 「自然界の蛍光の世界を理解する~光情報解析と生物学的解析の融合~」
複合科学研究科 情報学専攻 佐藤 いまり教授(平成27年度採択・2年目)
- 7) 「総研大の研究者および研究を俯瞰的に把握するための情報統合の研究」
複合科学研究科 情報学専攻 武田 英明 教授(平成27年度採択・2年目)

◎萌芽的研究会開催支援事業

本学の複数の研究科の教員、学外の研究者が連係し、調査活動や研究会の開催等による、新たな視点や研究手法を検討し、独創的・萌芽的な新たな研究の創出を目指す共同研究への発展に繋がる研究会の開催を通じて、研究課題の解決に向けた意欲的な取り組みに対し支援を行なっています。平成28年度は4件の支援を行いました。

日本人がかかえる英語の諸問題：研究に必要な英語教育・政策・国民性	複合科学研究科 統計科学専攻	島谷健一郎 准教授
重力崩壊型超新星の重要未解決問題の解決に向けて	物理科学研究科 天文科学専攻	梶野 敏貴 准教授
分野融合研究の駆動力となる定量的アプローチの研究会	学融合推進センター	西中 美和 特任准教授
「サイエンス」の展開に関する学術的研究会	学融合推進センター	七田麻美子 特任准教授

◎公開研究報告会

公開研究報告会は、学融合研究事業の下で研究活動を実施している研究者が年に一度本学葉山キャンパスに集い、採択された研究課題について研究活動報告を行う場です。研究課題の進捗状況を把握するという目的の他に、本学の多くの研究者と知り合う機会を提供することによって、広く意見交換する場として活用していただくことを目指しています。

期 日：平成29年1月26日～1月27日
場 所：総研大葉山キャンパス



◎研究論文出版費補助

本学に所属する学生の研究活動の成果である研究論文の掲載について、1件につき10万円までの印刷費、出版費の経費支援を実施していました(平成27年度から上限20万円になりました)。平成28年度は19件の助成を行いました。

基盤整備事業

◎学融合交流促進事業

本学の専攻を超えた研究、教育、交流を促進するため、各活動取材し、広く学内に周知する活動を行います。平成29年度は、学融合推進センターのウェブサイトやYouTube、Facebook等の多様なメディアを活用し、学内で行われる様々な事業の報告を通し、学内ネットワークの形成に努めます。

ウェブサイトでは以下の情報を発信しております。

センター関連事業の活動報告

学融合レクチャーや総研大研究プロジェクト企画会議、学生企画事業、その他センター関連事業について、写真とともに活動報告を行います。

動画コンテンツを用いた学内向け広報事業

学内に向けたセンター事業の周知を目的として、視覚的に理解しやすく、インパクトが大きい動画を用いた広報活動。YouTubeの学融合推進センター公式チャンネルを利用し、研究事業や学生企画事業、学融合レクチャー等の学内向けの広報動画を配信しております。

研究者交流掲示板

異分野連繋の促進を目的として、異分野連繋研究のアイデアを持つ研究者が、特定の技術や知識を持つ異分野の研究者を探すための場として利用していただけるウェブページです。

学融合のひと・こと(ブログ)

分野を越えた学生・教員の学術交流を推進することを目的として、学融合レクチャーや学生企画、萌芽的研究会などのセンター関連事業の周知や報告を行います。

◎遠隔教育支援事業

学融合推進センターでは、特別教育プログラム等の全学に向けた遠隔教育の支援活動を行っています。

平成28年度は、同期型・非同期型の授業コンテンツ作成および配信の支援を行うなど、本学の教育支援活動を行いました。平成29年度も、引き続き教育支援活動を行います。

お問い合わせ先：学融合推進センター

TEL：046-858-1629、1657

FAX：046-858-1632

E-mail：cpis-office@ml.soken.ac.jp

学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、本学の学術情報基盤に関する一元管理を行うことにより、学術情報の利用と発信の円滑化に必要な活動を行うと共に、情報基盤の整備充実を進め、全学の教育研究活動等を支援することによって、最先端の教育研究の進展に寄与するため、設立されました。

本部図書館

本部図書館は、本学が目指す高度な教育研究の展開と先導的学問分野の開拓に資するため、多様な学術資料の収集・整理・公開を行っています。

葉山キャンパスの教員・学生は24時間利用可能となっており、各研究科・専攻に共通する基本的図書および先導的・学際的研究分野に関連する専門図書・雑誌を収集・配架しており、館内設置機器による映像音響資料の利用も可能となっています。

そのほか、本学が授与した博士の学位論文、本学が出版した図書、雑誌、葉山キャンパスの教員・学生が発表した学術論文等がインターネットを通じて無料で閲覧できる機関リポジトリ、各種データベースとして、本館が所蔵する図書・雑誌のOPAC（オンライン所蔵目録）、書誌・引用文献データベース「HRMS」（High-Resolution Molecular Spectroscopy Database）、本学教員の「教育研究業績データベース」、その他「小松左京コーパス」「貝塚データベース」「鶏データベース」なども提供しています。

これらの資料、データは、本学の教員・学生が利用できるだけでなく、近隣住民など一般の方にも開放されており、研究資料の収集や学習スペースとしても有効に活用されています。

また、神奈川県立図書館の窓口の機能も有しており、神奈川県立図書館所蔵の図書の教職員及び周辺市民への貸出しを行っています（KL-NETサービス）。

更に2015年度より国立国会図書館の窓口として、国立国会図書館が所蔵するデジタル資料を閲覧できるサービスも開始しました。

■図書館で利用可能な学術情報資料数

図書：(和) 約 22,700 冊

(洋) 約 24,900 冊

雑誌：(和) 約 140 誌

(洋) 約 320 誌

電子ブック：約 56,000 冊

電子ジャーナル：約 5,800 誌

機関リポジトリ：約 4,800 件

H29.4.1 現在

■小松左京コーパス

小松左京著作に関する書誌 DB 等

■貝塚データベース

縄文時代の動物遺存体を出土している遺跡を集めた DB 等

■鶏データベース

鶏をモチーフとした民芸品等に関する DB 等

お問い合わせ先：学術情報基盤事務室図書係

TEL：046-858-1528, 1540

FAX：046-858-1607

E-mail：lib@ml.soken.ac.jp

総研大全学で利用できる電子ジャーナル

BioOne / JSTOR / Science Direct / Springer-LINK /
Wiley-Blackwell / GeoScienceWorld
Scopus (書誌・引用 DB・情報検索サービス)

※上記以外に葉山キャンパス内向けの電子ジャーナルも提供しています。

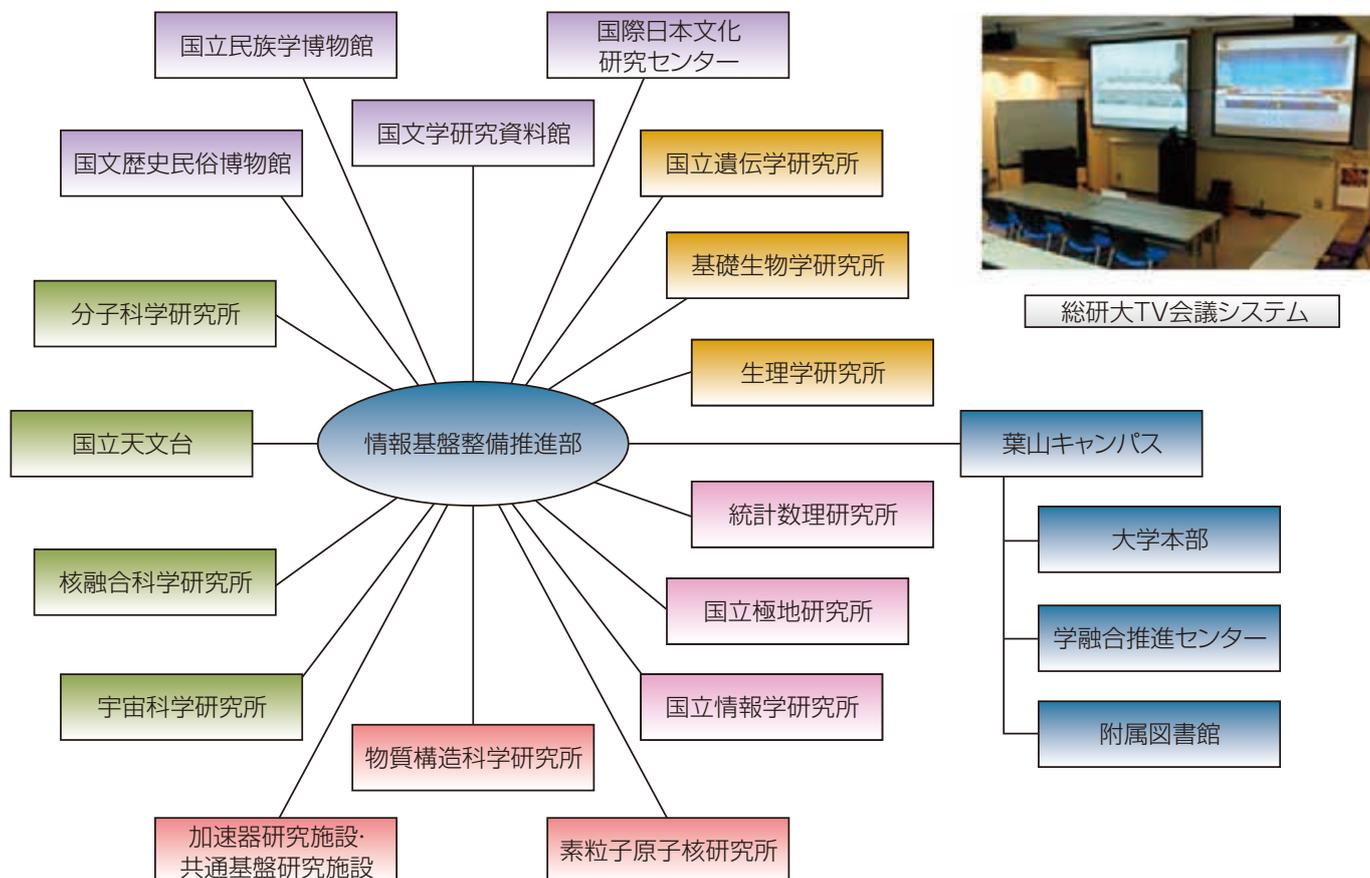
<http://www.lib.soken.ac.jp>

附属図書館

附属図書館は、大学本部に置く図書館(本部図書館)と機構等法人及び基盤機関が設置する図書館及び図書室(基盤図書館等)から構成されています。附属図書館は、電子資料を収集、整理及び蓄積するとともに、本部図書館及び基盤図書館等との緊密な関係及び協力の下に、学術情報利用の円滑化に必要な活動を行うことによって、本学の教育研究活動等を推進することを目的とし、全国に分散している基盤機関の教員・学生が共通に使えるよう、電子ジャーナル及び電子ブック、世界最大級の書誌・引用文献データベース「Scopus」を導入し、利用に供しています。

情報基盤整備推進部

情報基盤整備推進部は、本学の情報環境を整備し各種情報サービスを提供するとともに、情報メディアの利用促進を支援する学内拠点施設です。本学を構成する基盤機関との連携のもと全学的な情報環境を構築するとともに、横浜データセンターおよび葉山本部に設置された基幹情報ネットワークおよび情報システムの管理・運用を行っています。



総研大TV会議システム

全国に展開する大学共同利用機関、独立行政法人などの基盤機関および大学本部（葉山キャンパス）を結び、会議や委員会などの大学活動を支援しています。

TELAS@SOKEN (総研大TV講義支援システム)

専攻間連携を促進し、より広い視野をもって行う大学院教育や教育研究交流を支援しています。

総研大クラウド

大学内プライベート・クラウドとして学内教育連携の場を提供するとともに、学外への情報発信や学術交流ネットワーク構築の場として利用しています。

お問い合わせ先：学術情報基盤事務室総務係

TEL：046-858-1587

FAX：046-858-1633

E-mail：istc.jimu@ml.soken.ac.jp

国際・社会連携推進部

国際・社会連携推進部は、本学の国際連携、社会連携を推進することを目的とする組織として、平成27年度に設立されました。

国際連携室

◎海外学生派遣事業

この事業は、本学学生が国際共同研究活動に参加するための海外派遣に対して、公募により支援を行うものです。学生が海外の大学・研究所の最先端の研究現場に飛び込んで多くの優れた研究者に触れ研究活動を行うことで、高い専門性と国際的な視野を身につけ、広く世界で活躍できる研究者に育つことを目指しています。

平成28年度 派遣学生数：10名
派遣先：アメリカ、中国、ドイツ、スイス、アイルランド



◎教育研究連携事業

この事業は、本学の国際化促進の取り組みの一環として、海外研究機関及び大学との組織的連携を強化し、総研大国際ネットワークの構築に資することを目的に、海外の大学・研究機関等において教育の連携強化につながる調査及び共同研究活動を行う本学教員を支援するものです。

平成28年度 派遣教員数：6名
派遣先：アメリカ、インド、韓国、スイス、カナダ、シンガポール

◎海外学生・研究者招聘プログラム

この事業は、海外より学生・研究者を招聘し、共同研究・共同セミナー等の実施を通じ、本学の教育研究環境の国際通用性を高めるとともに、海外で活躍する修了生等と連携した国際的ネットワークの強化に資する事業を支援するものです。

平成28年度 実施件数：12件

◎国際研究集会開催支援事業

この事業は、本学の国際化促進の取り組みの一環として、国際的な学術交流の促進に寄与することと併せ、国際連携を強く推進する「総研大」のプレゼンス向上に資することを目的として、国内外で開催する国際研究集会（国際シンポジウム、国際フォーラム、国際セミナー等）に対し、一定の要件のもと開催経費の一部を支援するものです。

平成28年度 実施件数：11件

◎総研大ーUST共同セミナー

本共同セミナーは、本学と韓国の科学技術聯合大学院大学校（University of Science and Technology, UST）とで開催しており、本セミナーに本学と韓国のUSTの学生とが参加することで、相互の研究交流が活発に行われています。USTは、本学同様に研究所を基盤として作られた独立大学院大学です。

昨年度は、過去2回行われたセミナーの評価をふまえ、より幅広い教育交流につなげていくための話し合いを行いました。

◎JSPSサマー・プログラム

欧米諸国の博士号取得前後の若手研究者を、本学が(独)日本学術振興会と連携し、全国の大学共同利用機関や大学等との協力のもと、夏期2ヶ月間受入れるプログラムです。

葉山キャンパスでは、来日直後の1週間のオリエンテーションにおいて、日本語講座、日本文化紹介、日本の文化のレクチャーとともに、学術研究に関する特別講義、本学研究紹介・グループディスカッション、ポスタープレゼンテーションによる本学学生との交流などのプログラムを行っています。

彼らが日本の教育・研究機関で一定期間研究に携わり、日本の若手研究者との研究交流を持つこと等により、各国との学術交流を図り、日本の大学教育の国際化を進めることを目的として実施しています。

■開講式・オリエンテーション

期 日：平成28年6月15日～6月21日
場 所：総合研究大学院大学、湘南国際村センター

■報告会・送別会

期 日：平成28年8月23日
場 所：ホテルグランドパレス(東京)

■各研究機関での研修

期 日：平成28年6月22日～8月22日
場 所：基盤機関、大学等

平成23年度受入者		平成24年度受入者		平成25年度受入者		平成26年度受入者		平成27年度受入者		平成28年度受入者	
アメリカ	64名	アメリカ	64名	アメリカ	65名	アメリカ	66名	アメリカ	65名	アメリカ	65名
イギリス	9名	イギリス	12名	イギリス	17名	イギリス	13名	イギリス	10名	イギリス	10名
フランス	11名	フランス	10名	フランス	9名	フランス	13名	フランス	13名	フランス	13名
ドイツ	9名	ドイツ	14名	ドイツ	19名	ドイツ	13名	ドイツ	12名	ドイツ	12名
カナダ	6名	カナダ	9名	カナダ	3名	カナダ	0名	カナダ	10名	カナダ	10名
						スウェーデン	10名	スウェーデン	5名	スウェーデン	5名
計99名		計109名		計113名		計115名		計115名		計115名	



英語プレゼンテーション短期研修

研究の魅力を国際的にアピールする実践的能力の獲得を目的とするレクチャーを、JSPSサマー・プログラムのオリエンテーションに併せて、本学の学生を対象に開催しています。学生は、英語教師による指導を受け、オリエンテーションで実施されるグループディスカッションやポスターセッションにも参加し、英語で自身の研究紹介等を実践します。

広報社会連携室

広報社会連携室は、総合研究大学院大学の広報活動に係る対外的窓口です。広く学術の振興と普及、及び優れた研究成果の公的流通の促進を目的として、本学で行われている教育研究活動の成果を一般社会に発信・還元しています。主に、教育研究成果や地域へ向けた活動のプレスリリース、外部との窓口としてマスコミ等からの取材対応、ホームページによる情報公開、講演会やサイエンスカフェの開催、大学共同利用機関等のシンポジウムでの広報活動、総研大ニューズレターの企画・編集・発行などを行っています。

○ プレスリリース

平成28年度は次の6件のプレスリリースを行い、各メディアにも取り上げられました。

◇チョウの複眼はどうできるか？ - 複眼からみた色覚の進化

◇縄文人の核ゲノム配列をはじめて決定 ～東ユーラシア人の中で最初に分岐したのは縄文人だった～

遺伝学専攻の斎藤成也教授と、その指導をうけて2014年に総研大より博士(理学)を授与された神澤秀明さん(現在は国立科学博物館勤務)らのグループは、福島県北部にある三貫地貝塚から出土した縄文人の歯髄からDNAを抽出して、核ゲノムの一部を解読することに成功しました。今回、ミトコンドリアDNAの数千倍にあたる核ゲノムのDNA配列1億1,500万塩基対を決定しました。このゲノム情報を、現代日本列島人と比較解析したところ、縄文人はアイヌ人にもっとも近く、ついでオキナワ人、そしてヤマト人に近縁であることが明らかになりました。さらに、縄文人は、現代人の祖先がアフリカから東ユーラシアに移り住んだ頃、もっとも早く分岐した古い系統であること、そして、現代の本土日本人に伝えられた縄文人ゲノムの割合は20%未満であることが明らかになりました。

研究成果のプレスリリースを行い、各種メディアに取り上げられました。



◇サンゴは、これまで知られている生物の中で最大数の蛍光タンパク質遺伝子をもつ

◇動物と植物に共通の幹細胞化誘導因子の発見

◇食虫植物フクロユキノシタのゲノム解読で食虫性の進化解明への糸口を開く

◇『明月記』と『宋史』の記述から、平安・鎌倉時代における連発巨大磁気嵐の発生パターンを解明(P.30 参照)

○ 地域社会交流プログラム

◇湘南国際村フェスティバル 2016

ー講演会「オーロラと人間社会の過去・現在・未来～市民参加による研究～」

片岡 龍峰(極域科学専攻 准教授)

ーサイエンスカフェ

ー観望会「春の夜空を楽しもう」

期 日：平成28年5月3日

◇中学生のための科学セミナー

ー「バングラデシュの二度目の小学生」

内川 明佳(学融合推進センター 助教)

期 日：平成28年7月27日

◇サイエンスカフェ

ー「北極の天気と海氷をしらべる」

猪上 淳(極域科学専攻 准教授)

期 日：平成29年2月12日

◇横高アカデミア

本学は、地域における次世代教育の支援などを目的として、神奈川県立横須賀高等学校と連携して、「横高アカデミア」の事業を行い、講師を派遣しており、昨年度は7回開催されました。

同校は昨年度、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されました。



お問い合わせ先：広報社会連携室

TEL：046-858-1590

FAX：046-858-1632

E-mail：kouhou1@ml.soken.ac.jp

社会へ向けた取組み

広報社会連携室の活動の他に、以下のさまざまな取組みも進めています。

先導科学研究科 学術講演会

先導科学研究科の先端的な研究活動の成果のなかから、「生命・進化」に関連したテーマを取り上げた学術講演会を毎年開催し、研究の最前線を一般の人々に伝え、また、地域社会との交流を深めることを目的として実施しています。

■平成 28 年度 (第 19 回)

演 目：「サイコパスは“悪”か？ - サイコパスの適応価を探る」

横田 晋大 (先導科学研究科 特別研究員)

演 目：「縄文人はマメを育てたの？ - 土器圧痕から探る縄文時代の植物利用」

那須 浩郎 (生命共生体進化学専攻 助教)

期 日：平成 28 年 11 月 3 日

お問い合わせ先：総務課 先導科学研究科事務係

TEL：046-858-1577, 1595

FAX：046-858-1544

E-mail：office_sendou@ml.soken.ac.jp



総研大同窓ネットワーク (SOKENDAI Anet)

修士生を中心とした「総研大同窓ネットワーク」は、修士生と教職員、在学生の学術研究交流を促進して、専攻基盤機関を繋ぐ学際的かつ国際的な広がりをもった総研大コミュニティの関係をより確かなものとし、これらを通じた総研大における教育研究の一層の発展を図ることをその目的としています。

お問い合わせ先：Anet 事務室

E-mail：soken-anet@ml.soken.ac.jp

大学評価

本学の教育研究活動について、自己点検・評価を行い、さらに自己点検・評価結果について、第三者評価を受けることにより問題点や改善点を洗い出し、よりよい教育研究に資することを目的に大学評価を行っています。

■「先導科学研究科の外部評価」(平成 16 年 11 月、平成 25 年 1 月)

■「大学本部全学事業推進室の外部評価」(平成 19 年 3 月)

■「大学機関別認証評価」(平成 20 年 3 月、平成 26 年 3 月)

大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価を受け、「大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」旨の評価結果を得ました。

■「国立大学法人評価 (各年度評価及び中期目標期間評価)」

お問い合わせ先：総務課企画係

TEL：046-858-1584

FAX：046-858-1542

E-mail：irdiv@ml.soken.ac.jp

総研大ニュースレター

本学で行っている教育研究活動を発信する、総研大ニュースレターを毎月 1 回、広報社会連携室から刊行しています。

各キャンパスで行われているイベント情報の紹介や報告、プレスリリースされた研究成果、受賞等の学内活動の情報を掲載しており、大学ホームページ上で公開しています。

<https://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/publicity/newsletter/>



総研大ピープル

本学のノーベル賞受賞者

生命科学研究科 名誉教授



大隅 良典

総合研究大学院大学
および基礎生物学研
究所名誉教授

2016年「オートファジーの仕組みの
解明」によりノーベル生理学・医学賞受賞

1996年10月～2009年3月：
生命科学研究科 教授
2008年4月～2009年3月：
生命科学研究科長
2006年：日本学士院賞受賞
2016年：文化勲章受章

高エネルギー加速器科学研究科 名誉教授



小林 誠

総合研究大学院大学
名誉教授/高エネ
ルギー加速器研究機構
特別栄誉教授

2008年「CP対称性の破れの起源の
発見」によりノーベル物理学賞受賞

1999年4月～2004年3月：
数物科学研究科 教授
2004年4月～2006年3月：
高エネルギー加速器科学研究科 教授
2003年4月～2004年3月：
数物科学研究科 素粒子原子核専攻長
2004年4月～2006年3月：
高エネルギー加速器科学研究科
素粒子原子核専攻長
2008年：文化勲章受章

次の方々も国内外の著名な賞を受賞され、また、国際的な学術界で重要な地位に就かれています。(2007年以降)

氏名	受賞情報等	受賞対象となった研究業績
太田 朋子 名誉教授 (遺伝学専攻)	文化勲章 (2016) クラフォード賞 (2015)	「ほぼ中立説」
末松 安晴 名誉教授 (情報学専攻)	文化勲章 (2015)	光通信工学
印南 秀樹 准教授 (生命共生体進化学専攻)	日本学士院学術奨励賞 (2014)	ゲノム情報を用いた進化メカニズムの一般法則の理論的解明
中西 進 名誉教授 (国際日本研究専攻)	文化勲章 (2013)	日本文学
家 正則 名誉教授 (天文科学専攻)	日本学士院賞 (2013)	「初期宇宙の研究」
山中由里子 准教授 (地域文化学専攻)	日本学士院学術奨励賞 (2011)	中世中東世界におけるアレクサンドロス大王像の比較文学比較文化研究
速水 融 名誉教授 (国際日本研究専攻)	文化勲章 (2009)	社会経済史・歴史人口学
諸熊 奎治 名誉教授 (構造分子科学専攻)	恩賜賞・日本学士院賞 (2008)	分子の構造・機能・反応設計に関する理論的研究
海部 宣男 名誉教授 (天文科学専攻)	国際天文学連合 (IAU) 会長就任 (2012)	
本島 修 名誉教授 (核融合科学専攻)	国際核融合エネルギー研究開発機構 (ITER) 機構長就任 (2010)	

本学の在学学生・修了生も活躍されています。

氏名	専攻	受賞情報等	受賞対象となった研究業績
北村 大地	情報学専攻	日本学術振興会 育志賞 (2016)	「非負値行列因子音源モデルに基づく音楽信号の多チャネルブラインド音源分離」
望月 建爾	機能分子科学専攻	日本学術振興会 育志賞 (2013)	「氷の融解過程と水溶液の局所構造に関する理論研究」
中畑 義久	生理科学専攻	日本学術振興会 育志賞 (2013)	「シナプス後膜におけるグリシン受容体の活性化依存的空間ダイナミクス」

総研大科学者賞

本学において博士号を取得し、科学者として活躍している者の研究を顕彰することを目的とします。

- 平成 28 年度 (第 3 回)** 受賞年月日：平成 29 年 4 月 11 日
 受賞者：荒木 光典 (数物科学研究科 構造分子科学専攻 平成 11 年 3 月修了)
 受賞時所属：東京理科大学研究推進機構 総合研究院 プロジェクト研究員 (PI)
 研究分野：宇宙電波分光学、星間分子の同定
- 平成 27 年度 (第 2 回)** 受賞年月日：平成 28 年 4 月 4 日
 受賞者：島村 一平 (文化科学研究科 地域文化学専攻 平成 16 年 3 月修了)
 受賞時所属：滋賀県立大学人間文化学部 国際コミュニケーション学科 准教授
 研究分野：文化人類学、モンゴルにおけるシャーマン
- 平成 26 年度 (第 1 回)** 受賞年月日：平成 27 年 4 月 3 日
 受賞者：中村 真 (数物科学研究科 加速器科学専攻 平成 13 年 3 月修了)
 受賞時所属：中央大学理工学部物理学科 教授
 研究分野：理論物理学、超弦理論

長倉研究奨励賞

長倉研究奨励賞は本学の初代学長長倉三郎氏の寄附金をもとに同氏の意志に基づき、本学の学生が行っている研究のうち特に優秀な学生の研究を奨励し、先導的な学問分野を開拓するために設けられました。

平成 27 年度 (第 21 回) 授賞式：平成 28 年 9 月 28 日

氏名	専攻	研究テーマ
黄 昱	日本文学研究専攻	『徒然草』の漢籍受容と漢訳・継承
武田 浩平	生命共生体進化学専攻	タンチョウの儀式化した信号：なぜ、どのように多様なディスプレイを行うのか？

平成 26 年度 (第 20 回) 授賞式：平成 27 年 3 月 23 日

氏名	専攻	研究テーマ
片岡 章雅	天文学専攻	惑星形成初期におけるダスト進化理論の構築と観測による検証可能性
田淵紗和子	生理科学専攻	オレキシン神経の時期特異的運命制御によるナルコレプシー症状発現メカニズムの解明

平成 25 年度 (第 19 回) 授賞式：平成 26 年 3 月 20 日

氏名	専攻	研究テーマ
望月 建爾	機能分子科学専攻	氷の融解ダイナミクスに関する理論研究
大川都史香	生理科学専攻	シナプス蛋白質を標的とする自己抗体の網羅的解析 ～辺縁系脳炎における LGI1 自己抗体の作用機序の解明～

平成 24 年度 (第 18 回) 授賞式：平成 25 年 3 月 22 日

氏名	専攻	研究テーマ
本多 正純	素粒子原子核専攻	超弦理論・M 理論の数値実験
保國 恵一	情報学専攻	大規模・悪条件最小二乗問題に対する内部反復前処理法

平成 23 年度 (第 17 回) 授賞式：平成 24 年 3 月 23 日

氏名	専攻	研究テーマ
大場 千景	地域文化学専攻	無文字社会における歴史記憶の生成と継承 ～南エチオピア牧畜民ボラナにおける口承史の分析をととして～

総研大未来科学者賞

研究者を志す本学在学生の学位研究で、学生自身の発案や学生からの積極的な企画による、独創的な視野を持った研究活動を奨励することを目的とします。

平成 28 年度 (第 3 回) 授賞式：平成 29 年 4 月 11 日

氏名	専攻	研究テーマ
川島 孝行	統計科学専攻	ビッグデータ解析のためのロバストかつスパースな回帰モデリング
飯塚 朋代	遺伝学専攻	比較ゲノム解析による平行進化機構の解明 ～担子菌類を例として～
加藤 貴大	生命共生体進化学専攻	スズメ <i>Passer montanus</i> における胚の性特異的死亡を介した二次性比の偏り ～性特異的死亡の至近要因と生態学的要因、およびその帰結～

平成 27 年度 (第 2 回) 授賞式：平成 28 年 4 月 4 日

氏名	専攻	研究テーマ
大西 響子	天文学専攻	巨大ブラックホールと母銀河の共進化の解明に向けたブラックホール質量の観測的研究
田上 悠太	統計科学専攻	銀行債権の信用リスクの分析と推定

平成 26 年度 (第 1 回) 授賞式：平成 27 年 4 月 6 日

氏名	専攻	研究テーマ
黄 昱	日本文学研究専攻	『徒然草』の漢籍受容と漢訳～文学におけるオリジナリティの創出について～
嶋川 里澄	天文学専攻	銀河形成への環境効果：渦巻銀河と楕円銀河はいつどのように分化したか？
中沢 信吾	遺伝学専攻	新生仔大脳皮質における入力依存的なバレル神経回路発達機構の解析

教職員数

平成 29 年 5 月 1 日現在

区分	役員	教授	准教授	講師	助教	その他	事務職員	計
学 長	1							1
理 事	2							2
監 事	2							2
副 学 長	(1)							(1)
学 長 補 佐						1		1
文化科学研究科	地域文化学専攻		10	13				23
	比較文化学専攻		11	12				23
	国際日本研究専攻		19	4				23
	日本歴史研究専攻		19	14				33
	日本文学研究専攻		8	14				22
計	0	67	57	0	0	0	0	124
物理科学研究科	構造分子科学専攻		7	7		20		34
	機能分子科学専攻		10	7		21		38
	天文学専攻		23	37	(1)	49		109(1)
	核融合科学専攻		25	19		18		62
	宇宙科学専攻		15	41		20		76
計	0	80	111	(1)	128	0	0	319(1)
高エネルギー 加速器科学研究科	加速器科学専攻		55	57	17	55		184
	物質構造科学専攻		20	23	6	15		64
	素粒子原子核専攻		34	33	30	20		117
計	0	109	113	53	90	0	0	365
複合科学研究科	統計科学専攻		18	18		10		46
	極域科学専攻		10	26		19		55
	情報学専攻		27	32		12		71
計	0	55	76	0	41	0	0	172
生命科学研究所	遺伝学専攻		25	8		36		69
	基礎生物学専攻		15	15		36		66
	生理科学専攻		15(1)	16		37		68(1)
計	0	55(1)	39	0	109	0	0	203(1)
先端科学研究科	生命共生体進化学専攻		4(1)	6	4	6	4	24(1)
	計	0	4(1)	6	4	6	4	24(1)
学融合推進センター		(1)	2(2)	(2)	4(1)			6(6)
学術情報基盤センター	(1)	(1)	(1)	1	1			2(3)
事務局等				1			42	43
合 計	5(2)	370(4)	404(3)	59(3)	379(1)	5	42	1264(13)

※()については、他部署と兼務。(外数)

学生数

平成 29 年 5 月 1 日現在

研究科	専攻	入学定員		1 年次		2 年次		3年次(1年次)		4年次(2年次)		5年次(3年次)		計							
		5年一貫制 博士課程	博士後期課程 (3年次編入学)	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生						
文化科学 研究科	地域文化学専攻		3					3	1	2	0	0	8	3	5	11	4	7			
	比較文化学専攻		3					1	0	1	3	1	2	13	9	3	17	10	6		
	国際日本研究専攻		3					3	2	2	4	3	2	13	8	2	20	13	6		
	日本歴史研究専攻		3					2	0	0	1	0	0	7	3	1	10	3	1		
	日本文学研究専攻		3					2	0	0	1	1	0	3	3	0	6	4	0		
計		15					11	3	5	9	5	4	44	26	11	64	34	20			
物理科学 研究科	構造分子科学専攻	2	3	4	1	0	5	2	0	2	1	0	5	0	2	8	4	5	24	8	7
	機能分子科学専攻	2	3	6	3	1	4	1	0	5	0	3	1	1	1	0	0	17	5	5	
	天文学専攻	2	3	4	0	0	5	0	0	7	3	1	2	1	0	11	2	3	29	6	4
	核融合科学専攻	2	3	2	1	0	3	0	0	5	1	3	4	0	2	4	0	3	18	2	8
	宇宙科学専攻	2	3	3	1	1	3	0	0	4	0	0	7	2	2	6	1	0	23	4	3
計	10	15	19	6	2	20	3	0	23	5	7	19	4	7	30	7	11	111	25	27	
高エネルギー 加速器科学 研究科	加速器科学専攻	2	※ ²	2	0	1	4	0	2	8	1	4	3	1	1	4	1	2	21	3	10
	物質構造科学専攻	3	※ ²	3	2	1	1	0	1	0	0	4	1	2	1	1	0	9	4	4	
	素粒子原子核専攻	4	※ ²	5	0	0	9	1	1	11	1	1	7	2	2	10	0	0	42	4	4
計	9	—	10	2	2	14	1	4	19	2	5	14	4	5	15	2	2	72	11	18	
複合科学 研究科	統計科学専攻	2	3	2	0	0	0	0	5	1	2	6	1	0	12	3	0	25	5	2	
	極域科学専攻	2	1	3	1	0	1	0	0	5	1	0	3	0	0	8	5	0	20	7	0
	情報学専攻	4	6	7	2	4	3	0	3	16	0	9	12	2	10	27	3	11	65	7	37
計	8	10	12	3	4	4	0	3	26	2	11	21	3	10	47	11	11	110	19	39	
生命科学 研究科	遺伝学専攻	3	6	8	5	3	3	2	2	5	1	1	5	2	1	14	4	4	35	14	11
	基礎生物学専攻	3	6	4	1	1	4	0	1	6	0	1	8	4	0	17	9	4	39	14	7
	生理科学専攻	3	6	3	0	0	2	1	0	4	4	4	5	0	1	10	3	0	24	8	5
計	9	18	15	6	4	9	3	3	15	5	6	18	6	2	41	16	8	98	36	23	
先端科学 研究科	生命共生体進化学専攻	5	1	1	1	0	2	0	0	4	2	0	3	3	3	12	9	0	22	15	3
	計	5	1	1	1	0	2	0	0	4	2	0	3	3	3	12	9	0	22	15	3
合 計		41	59	57	18	12	49	7	10	98	19	34	84	25	31	189	71	43	477	140	130

※ 1. 女子・外国人留学生は共に内数

※ 2. 高エネルギー加速器科学研究科は、3年次編入学については入学定員の設定はないが、入試は実施。

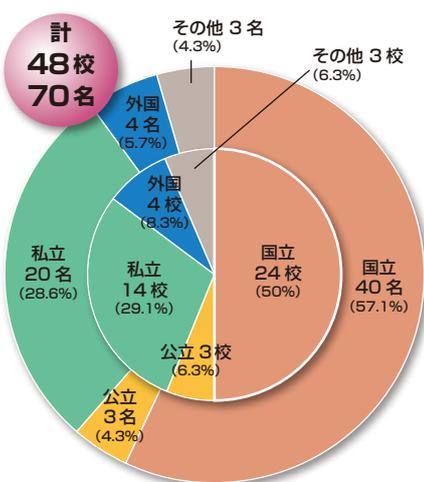
入学者状況

平成29年度(4月入学)入学者選抜実施状況(5年一貫制博士課程及び博士後期課程(博士課程3年次編入学)) 平成29年4月1日現在

研究科	専攻	入学定員	入学選抜実施状況		入学者	入学者の内訳			
			志願者	合格者		性別		留学生	有職者
						男	女		
文化科学研究科	地域文化学専攻	- (3)	(4)	(3)	(3)	(2)	(1)	(2)	
	比較文化学専攻	- (3)	(3)	(1)	(1)	(1)		(1)	
	国際日本研究専攻	- (3)	(6)	(3)	(3)	(1)	(2)	(2)	
	日本歴史研究専攻	- (3)	(5)	(2)	(2)	(2)			(1)
	日本文学研究専攻	- (3)	(4)	(2)	(2)	(2)			
	計	- (15)	(22)	(11)	(11)	(8)	(3)	(5)	(1)
物理学研究科	構造分子科学専攻	2 (3)	6 (1)	6	4	3	1		
	機能分子科学専攻	2 (3)	8 (1)	6 (1)	5 (1)	3 (1)	2	(1)	
	天文科学専攻	2 (3)	24 (1)	7 (1)	4 (1)	4	(1)		
	核融合科学専攻	2 (3)	4	3	2	1	1		
	宇宙科学専攻	2 (3)	10 (2)	3 (2)	2 (1)	1 (1)	1		
	計	10 (15)	52 (5)	25 (4)	17 (3)	12 (2)	5 (1)	(1)	
高エネルギー加速器科学研究科	加速器科学専攻	2 (若干名)	3 (2)	3 (2)	1 (2)	1 (2)			
	物質構造科学専攻	3 (若干名)	4 (1)	3 (1)	2	1	1		
	素粒子原子核専攻	4 (若干名)	22	11	5	5			
	計	9	29 (3)	17 (3)	8 (2)	7 (2)	1		
複合科学研究科	統計科学専攻	2 (3)	4 (3)	3 (3)	1 (3)	1 (2)	(1)	(1)	(2)
	極域科学専攻	2 (1)	5	3	3	2	1		
	情報学専攻	4 (6)	6 (6)	3 (3)	2 (3)	2 (3)		(1)	1 (1)
	計	8 (10)	15 (9)	9 (6)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	(2)	1 (3)
生命科学研究科	遺伝学専攻	3 (6)	8 (1)	4	4	2	2		
	基礎生物学専攻	3 (6)	4 (5)	4 (5)	3 (4)	2 (4)	1		
	生理科学専攻	3 (6)	5	3	3	3			
	計	9 (18)	17 (6)	11 (5)	10 (4)	7 (4)	3		
先導科学研究科	生命共生体進化学専攻	5 (1)	7 (3)	3 (2)	1 (2)		1 (2)		
	計	5 (1)	7 (3)	3 (2)	1 (2)		1 (2)		
合計		41 (59)	120 (48)	65 (31)	42 (28)	31 (21)	11 (7)	(8)	1 (4)

() は博士後期課程または博士課程3年次編入学で外数。

平成29年度入学者状況 (出身大学等)



国立大学 40名	
北海道大学	4
弘前大学	1
東北大学	1
筑波大学	2
千葉大学	1
東京大学	4
東京学芸大学	2
東京農工大学	2
新潟大学	1
電気通信大学	1
一橋大学	1
長岡技術科学大学	1
信州大学	1
総合研究大学院大学	1
名古屋大学	5
名古屋工業大学	1
京都大学	2
大阪大学	1
奈良女子大学	1
広島大学	2
徳島大学	1
香川大学	1
高知大学	1
九州大学	2

私立大学 20名	
神奈川大学	1
青山学院大学	1
慶應義塾大学	1
国際基督教大学	1
芝浦工業大学	1
大正大学	1
中央大学	1
東京農業大学	3
東京理科大学	2
日本大学	4
日本女子大学	1
早稲田大学	1
立命館大学	1
放送大学	1

外国の大学 4名	
Mahidol University (タイ)	1
California State University (アメリカ)	1
Vietnam National University-Ho Chi Minh City, University of Information Technology (ベトナム)	1
東北師範大学 (中国)	1

その他 3名	
旭川工業高等専門学校	1
奈良工業高等専門学校	1
大阪府立大学工業高等専門学校	1

公立大学 3名	
首都大学東京	1
都留文科大学	1
名古屋市立大学	1

博士の学位授与状況（研究科別）

研究科	入学定員	専攻分野	3年度から23年度計	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	計
文化科学研究科	(15)	文学	86 [19] (36)	7 [2] (4)	3 (1)	5 [4] (2)	5 [4] (1)	5 [1] (3)	111 [30] (47)
		学術	55 [8] (21)	3 [1] (4)	4 [1] (4)	6 [2] (2)	4	3 [2]	75 [14] (31)
物理科学研究科	10(15)	学術	55 [0] (11)	3	0	0	1	2 [1]	61 [1] (11)
		理学	323 [11] (32)	13 [2]	19	11 (3)	10 [3]	22 [1]	398 [17] (35)
		工学	55 [1] (15)	6	7 [1]	4 [2] (1)	3	3 (1)	78 [4] (17)
高エネルギー加速器科学研究科	9(※)	学術	22 [0] (8)	1 [1]	0 (1)	0	0	2	25 [1] (9)
		理学	127 [3] (12)	12 (1)	5	8	9	2	163 [3] (13)
		工学	40 [0] (21)	3	1	3	1 (2)	2 [1]	50 [1] (23)
複合科学研究科	8(10)	統計学	21 [1] (2)	1 (1)	1	4 [1]	4	5	36 [2] (3)
		学術	69 [4] (10)	4	5	2	1	2 [1]	83 [5] (10)
		理学	48 [0] (6)	2	2	2	2	3	59 [0] (6)
		情報学	76 [4] (0)	10 [1]	9 [1]	10 [1]	14 [2]	22 [4]	141 [13] (0)
生命科学科学研究科	9(18)	学術	34 [1] (2)	0	1	0	1	0	36 [1] (2)
		理学	450 [22] (35)	21 [1]	18 [2] (1)	23 [2] (1)	18 [1] (1)	20 [2] (1)	550 [30] (39)
		医学	8 [0] (0)	0	1	0	1	0	10 [0] (0)
先導科学研究科	5(1)	学術	15 [5] (0)	0 (1)	0	0	0	0	15 [5] (1)
		理学	42 [6] (2)	3 [1]	2	1	4	0	52 [7] (2)
		工学	5 [1] (0)	0	0	0	0	0	5 [1] (0)
合計	41(59)		1531 [86] (213)	89 [9] (11)	78 [5] (7)	79 [12] (9)	78 [10] (4)	93 [13] (5)	1948 [135] (249)

・入学定員は平成28年度の数字（括弧の数字は博士後期課程または博士課程3年次編入学生の定員。高エネルギー加速器科学研究科の※は定員設定はないが若干名受入。）

・（ ）は論文博士で外数。

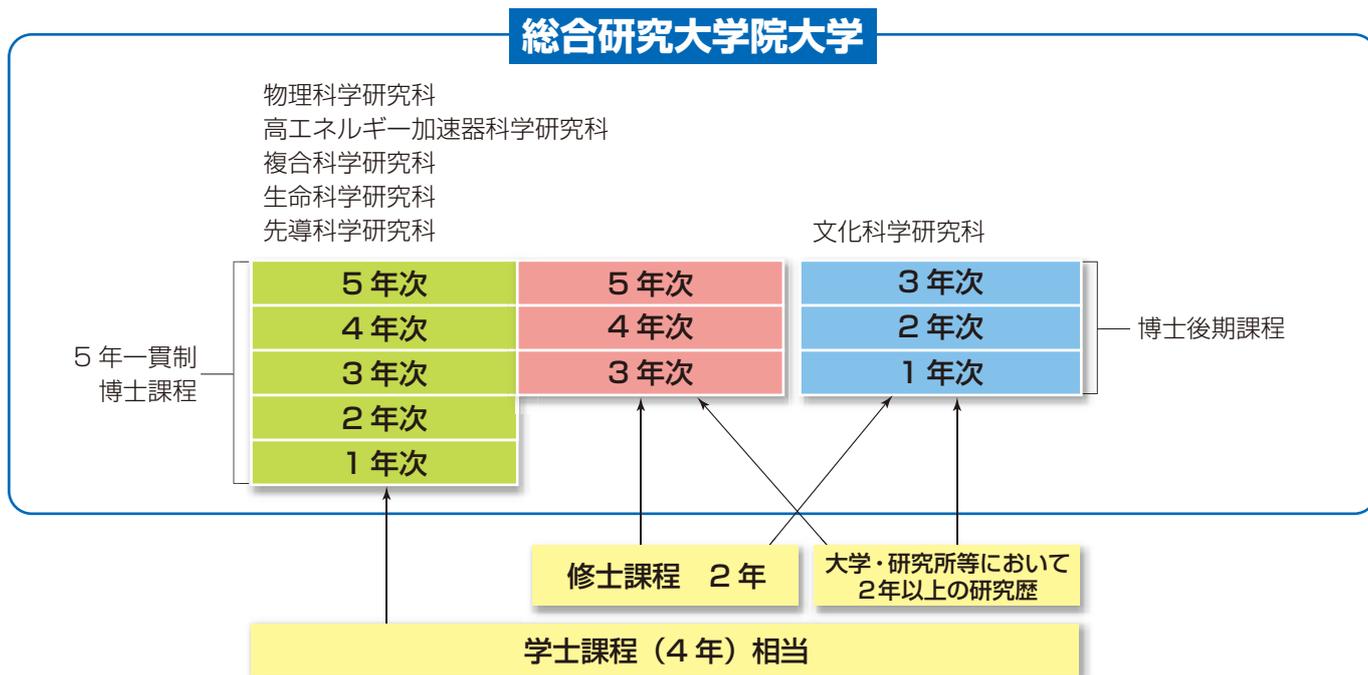
・[]は単位取得退学後、所定の期間内に出席し学位を取得した者で、内数。

・物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科は平成16年3月31日まで数物科学研究科。

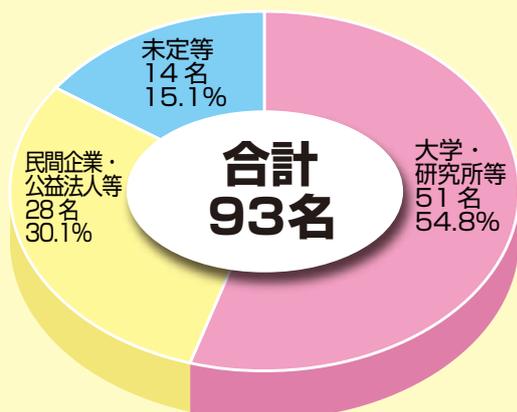
修了の要件

本学に3年(5年一貫制博士課程は5年)以上在学し、各専攻で定める所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することが修了の要件です。

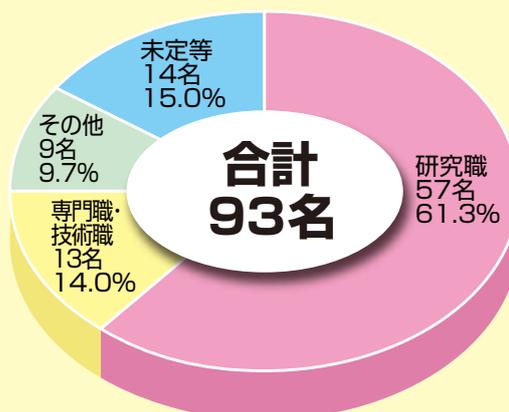
なお、優れた研究業績を上げた者は在学期間を短縮して修了することができます。



平成 28 年度 修了生進路状況



業種別



職種別

大学・研究所等

- 国立民族学博物館
- 分子科学研究所
- 核融合科学研究所
- 国立天文台
- 宇宙科学研究所
- 高エネルギー加速器研究機構 構造生物学研究センター
- 統計数理研究所
- 国立情報学研究所
- 国立遺伝学研究所
- 基礎生物学研究所
- 生理学研究所
- 自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター
- 会津大学
- 青森中央学院大学
- 愛媛大学
- 大阪大谷大学教育学部
- 関西学院大学
- 慶應義塾大学
- 東京大学
- 北陸先端科学技術大学院大学
- 立命館大学
- 早稲田大学
- 東京大学 大気海洋研究所
- 富山大学 極東地域研究センター
- Begum Rokeya University, Rangpur
- Columbia University
- Hue University of Sciences
- National University of Singapore
- University of California, Santa Cruz
- University of Science, Vietnam National University of Ho Chi Minh City
- Vidyasirimedhi Institute of Science and Technology
- 湖北中医药大学
- Institute of Organic Chemistry and Biochemistry of the Czech Academy of Science
- Institute of Plasma Physics, Chinese Academy of Sciences
- Southwestern Institute of Physics

- 研究職：大学教員、大学共同利用機関教員、民間研究所等の研究職、ポスドク等
- その他：事務職・サービス業従事者、教諭等

民間企業・公益法人等

- 旭化成株式会社基盤技術研究所
- 株式会社トヤマ
- 株式会社ナード研究所
- 株式会社ファースト
- 株式会社 FiNC
- 株式会社本田技術研究所
- キヤノン電子株式会社
- シミック株式会社
- 新中村化学工業株式会社
- 新日本有限責任監査法人
- ソニー株式会社
- タカラバイオ株式会社
- テックファーム株式会社
- 東京電力ホールディングス株式会社
- 日研トータルソーシング株式会社
- 日新電子工業株式会社
- ニフティ株式会社
- バーチャレクス・コンサルティング株式会社
- BEANCUBE JAPAN 株式会社
- Global Energy Interconnection Development and Cooperation Organization
- SAP ジャパン株式会社
- 茨城工業高等専門学校
- 学校法人開智学園
- 栃木県教育委員会事務局
- 日本健康医療専門学校
- 防衛省

国際交流

平成29年度外国人留学生(専攻別)一覧

平成29年5月1日現在

研究科	専攻	入学定員		1年次			2年次			3年次(1年次)			4年次(2年次)			5年次(3年次)			計			研究生		
		5年一貫制 博士課程	博士後期課程 (3年次編入学)	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	女子	国費	
文化科学研究科	地域文化学専攻		3							2	1					5	3		7	4	0			
	比較文化学専攻		3							1			2	1	2	3	2	1	6	3	3	2	1	1
	国際日本研究専攻		3							2	2		2	2		2	1		6	5	0	1	1	1
	日本歴史研究専攻		3													1			1	0	0			
	日本文学研究専攻		3																0	0	0			
	計	0	15	0	0	0	0	0	0	5	3	0	4	3	2	11	6	1	20	12	3	3	2	2
物理学研究科	構造分子科学専攻	2	3									2		1	5	3			7	3	1			
	機能分子科学専攻	2	3	1	1	1				3		1	1						5	2	2			
	天文科学専攻	2	3							1	1	1				3			4	1	1			
	核融合科学専攻	2	3							3	1	2	2		2	3		3	8	1	7			
	宇宙科学専攻	2	3	1		1							2		2				3	0	3	1		1
	計	10	15	2	1	2	0	0	0	7	2	4	7	1	5	11	3	3	27	7	14	1		1
高エネルギー加速器科学研究科	加速器科学専攻	2	若干名	1		1	2		2	4	1	2	1	1	1	2	1		10	3	6			
	物質構造科学専攻	3	若干名	1	1	1	1						2	1	2				4	2	3			
	素粒子原子核専攻	4	若干名				1	1					2	1	1				4	1	2	1		1
	計	9	—	2	1	2	4	0	3	5	1	2	5	3	4	2	1	0	18	6	11	1		1
複合科学研究科	統計科学専攻	2	3							2	1								2	1	0			
	極域科学専攻	2	1																0	0	0			
	情報科学専攻	4	6	4	2	2	3		2	9		4	10	2	6	11	1	3	37	5	17			
	計	8	10	4	2	2	3	0	2	11	1	4	10	2	6	11	1	3	39	6	17			
生命科学研究科	遺伝学専攻	3	6	3	3	2	2	2	1	1		1	1			4	2	1	11	7	5			
	基礎生物学専攻	3	6	1		1	1		1	1		1			4	2	3	7	2	6				
	生理学専攻	3	6							4	4	4	1		1				5	4	5			
	計	9	18	4	3	3	3	2	2	6	4	6	2	0	1	8	4	4	23	13	16			
先端科学研究科	生命共生体進化学専攻	5	1										3	3	2				3	3	2	1		
	計	5	1										3	3	2				3	3	2	1		
	合計	41	59	12	7	9	10	2	7	34	11	16	31	12	20	43	15	11	130	47	63	6	2	4

各年次について、4月入学者とその前年度の10月入学者の合計数。女子及び留学生はともに内数。

平成29年度外国人留学生(国別)一覧

平成29年5月1日現在

国名	1年次			2年次			3年次(1年次)			4年次(2年次)			5年次(3年次)			計			研究生		
	女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費		女子	国費	
アジア	11	7	8	8	1	6	31	10	14	26	12	16	38	14	9	114	44	53	2		1
インド				1		1	5	1	4				4	1		10	2	5			
インドネシア	1	1	1				3	1	1	3	2	3	2	1		9	5	5			
タイ	2	1	2				3	1	2	3	1	2	6	1	3	14	4	9	1		1
パキスタン	3	2	3	1		1										4	2	4			
バングラデシュ	1	1		1		1										2	1	1			
フィリピン										1						1	0	0			
ベトナム	3	1	2				3		2	7	4	4	3	1	1	16	6	9			
マレーシア				1	1	1	1			1						3	1	1			
大韓民国							2	1	1				1			3	1	1			
中華人民共和国	1	1		4		2	13	5	4	9	4	7	20	8	5	47	18	18	1		
台湾							1	1		2	1		2	2		5	4	0			
アフリカ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1			
南アフリカ	1		1													1	0	1			
オセアニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	2	0	1			
オーストラリア													1			1	0	0			
ニュージーランド										1		1				1	0	1			
欧州	0	0	0	1	0	1	1	1	1	3	0	2	1	0	0	6	1	4	1	1	1
英国																0	0	0	1	1	1
ハンガリー				1		1										1	0	1			
フランス										2		1	1			3	0	1			
ベラルーシ										1		1				1	0	1			
ロシア							1	1	1							1	1	1			
中東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	0	2	1		1
イラン													1		1	1	0	1			
トルコ										1		1				1	0	1	1		1
中南米	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	1			
アルゼンチン							1									1	0	0			
エクアドル													1	1	1	1	1	1			
北米	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	3	1	1	2	1	1
メキシコ																0	0	0	1	1	1
アメリカ				1	1		1		1				1			3	1	1	1	1	1
総計	12	7	9	10	2	7	34	11	16	32	13	20	42	14	11	130	47	63	6	2	4

年次の()が後期3年博士課程の研究科に対応。

女子及び国費留学生はともに内数。

大学間交流協定

本学では、大学間の学術交流を通じて、大学院における教育・研究活動のより一層の充実をはかるため、国内外の大学と学術交流協定を締結しています。

海外の大学等との交流協定

協定機関／対応部局【国名】	本学対応部局	協定内容	協定締結年月日	協定有効期限
科学技術聯合大学院大学校【大韓民国】	全研究科	研究者交流 学生交流	平成17年 5月25日 平成22年 5月25日	平成32年 5月24日
バイロイト大学【ドイツ】	全研究科	研究者交流 学生交流	平成21年10月 9日 平成24年10月 9日	平成29年10月 8日
チュラロンコン大学理学部【タイ】	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成22年 4月 1日	平成32年 3月23日
カセサート大学理学部【タイ】	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成23年 3月29日	平成33年 4月10日
Indian Institute of Science Education and Research Pune【インド】	生命科学研究科	研究者交流 学生交流	平成23年 4月18日	平成33年 4月16日
マヒドン大学理学部【タイ】	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成26年 3月20日	平成31年 3月19日
南洋理工大學理学部【シンガポール】	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成26年 3月20日	平成31年 3月19日
マラヤ大学理学部【マレーシア】	物理科学研究科	研究者交流 学生交流	平成26年 3月24日	平成31年 3月23日
シンガポール国立大学インタラクティブ電子メディア研究所【シンガポール】	学融合推進センター	研究者交流	平成28年12月 9日	平成33年12月 8日
ベトナム国立自然科学大学生物学部【ベトナム】	先導科学研究科	研究者交流 学生交流	平成29年 2月 8日	平成34年 2月 7日
ベトナム国立農業大学動物科学学部【ベトナム】	先導科学研究科	研究者交流 学生交流	平成29年 2月15日	平成34年 2月14日
ベトナム社会科学院考古学研究所【ベトナム】	先導科学研究科	研究者交流	平成29年 2月20日	平成34年 2月19日

国内の大学等との交流協定

協定機関	本学対応部局	協定内容	協定締結年月日
東京工業大学 全学院	全研究科	学生交流	平成 7年 4月 3日
お茶の水女子大学	全研究科	学生交流	平成 7年 4月 3日
名古屋大学 大学院医学系研究科	生命科学研究科 (生理科学専攻)	学生交流	平成 7年 4月 3日
名古屋大学 大学院工学研究科	物理科学研究科	学生交流	平成22年 4月 1日
東京大学 大学院理学系研究科	物理科学研究科 高エネルギー加速器科学研究科 複合科学研究科	学生交流	平成10年 3月27日
東京大学 大学院情報理工学系研究科	物理科学研究科 高エネルギー加速器科学研究科 複合科学研究科・生命科学研究科 先導科学研究科	学生交流	平成10年 3月27日
国際基督教大学 アーツ・サイエンス研究科	全研究科	学生交流	平成12年 3月24日
京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	学生交流	平成17年 4月 1日
大阪大学大学院 人間科学研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	学生交流	平成17年 4月 1日
神戸大学大学院 国際文化学研究科 人間発達環境学研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	学生交流	平成17年 4月 1日
京都文教大学大学院 文化人類学研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	学生交流	平成17年 4月 1日
千葉大学大学院 人文公共学府	文化科学研究科	学生交流	平成17年 4月 1日
千葉大学大学院 融合理工学府	物理科学研究科	学生交流	平成22年 4月 1日
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	複合科学研究科 (情報学専攻)	学生交流	平成21年 4月 1日
津田塾大学 理学研究科	複合科学研究科	学生交流	平成27年 4月 1日
早稲田大学 基幹理工学研究科	複合科学研究科	学生交流	平成27年 4月 1日
九州大学大学院 薬学府	生命科学研究科	学生交流	平成29年 4月 1日

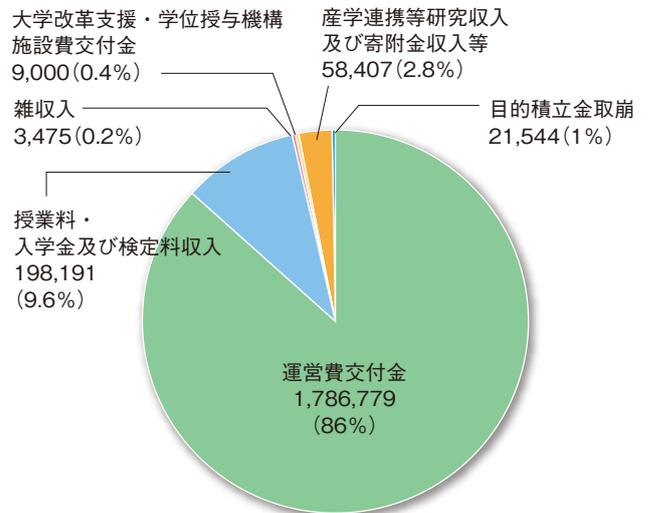
神奈川県内の大学等との交流協定 (研究者交流、学生交流)

協定機関	本学対応部局	協定締結年月日
麻布大学	獣医学研究科	平成 13 年 1 月 10 日
	環境保健学研究科	
神奈川大学	法学研究科	
	経済学研究科	
	経営学研究科	
	外国語学研究科	
	理学研究科	
神奈川工科大学	工学研究科	
	文学研究科	
	経済学研究科	
関東学院大学	法学研究科	
	工学研究科	
	理学研究科	
北里大学	医療系研究科	
	看護学研究科	
	薬学研究科	
	獣医学系研究科	
	海洋生命科学研究所	
	感染制御科学府	
湘南工科大学	工学研究科	平成 14 年 3 月 20 日
専修大学	経済学研究科	
	法学研究科	
	文学研究科	
鶴見大学	経営学研究科	
	商学研究科	
鶴見大学	文学研究科	
桐蔭横浜大学	法学研究科	
	工学研究科	
東海大学	スポーツ科学研究科	
	文学研究科	
	政治学研究科	
	経済学研究科	
	法学研究科	
	芸術学研究科	
	体育学研究科	
	理学研究科	
	工学研究科	
	海洋学研究科	
健康科学研究科		
人間環境学研究科	全研究科	
東京工芸大学		工学研究科
日本大学		生物資源科学研究科
		獣医学研究科
日本女子大学		人間社会研究科
		文学研究科
		理学研究科
		家政学研究科
横浜国立大学		人間生活学研究科
		医学研究科
	都市社会文化研究科	
横浜国立大学	生命ナノシステム科学研究科	
	生命医科学研究科	
	工学府	
横浜国立大学	環境情報学府	
	教育学研究科	
	国際社会学府	
東京工業大学	都市イノベーション学府	
東京工業大学	生命理工学大学院	
明治大学	農学研究科	
フェリス 女学院大学	人文科学研究科	
	国際交流研究科	
情報セキュリティ 大学院大学	音楽研究科	
	情報セキュリティ研究科	
情報セキュリティ 大学院大学	情報セキュリティ研究科	
東京都市大学	環境情報学研究科	平成 17 年 4 月 1 日
相模女子大学	栄養科学研究科	平成 19 年 4 月 1 日
松蔭大学	経営管理研究科	平成 21 年 4 月 1 日
青山学院大学	理工学研究科	平成 21 年 4 月 1 日
文教大学	情報学研究科	平成 22 年 4 月 1 日
	国際学研究科	平成 25 年 4 月 1 日
神奈川歯科大学	歯学研究科	平成 26 年 4 月 1 日
鎌倉女子大学	児童学研究科	平成 26 年 4 月 1 日
聖マリアンナ 医学大学	医学研究科	平成 27 年 4 月 1 日
昭和大学	保健医療学研究科	平成 27 年 4 月 1 日
女子美術大学	美術研究科	平成 28 年 4 月 1 日

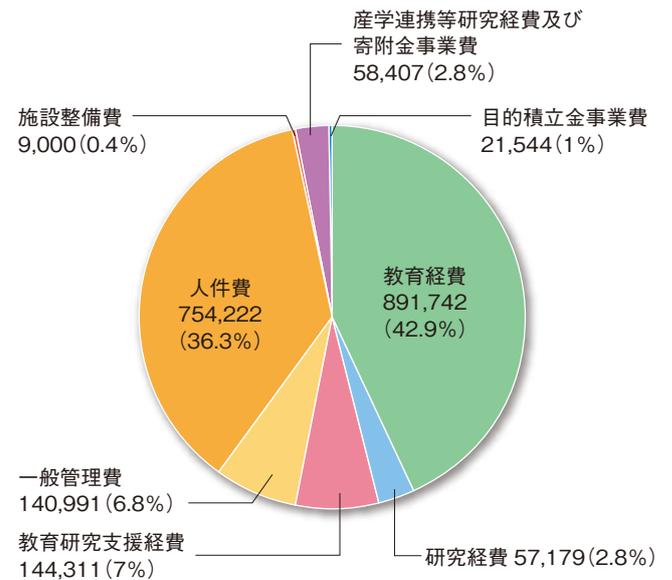
平成 29 年度収入・支出予算

(単位：千円)

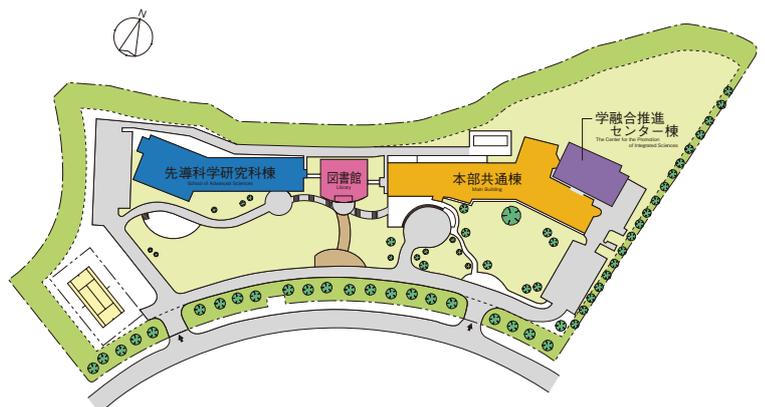
収入予算総額 2,077,396



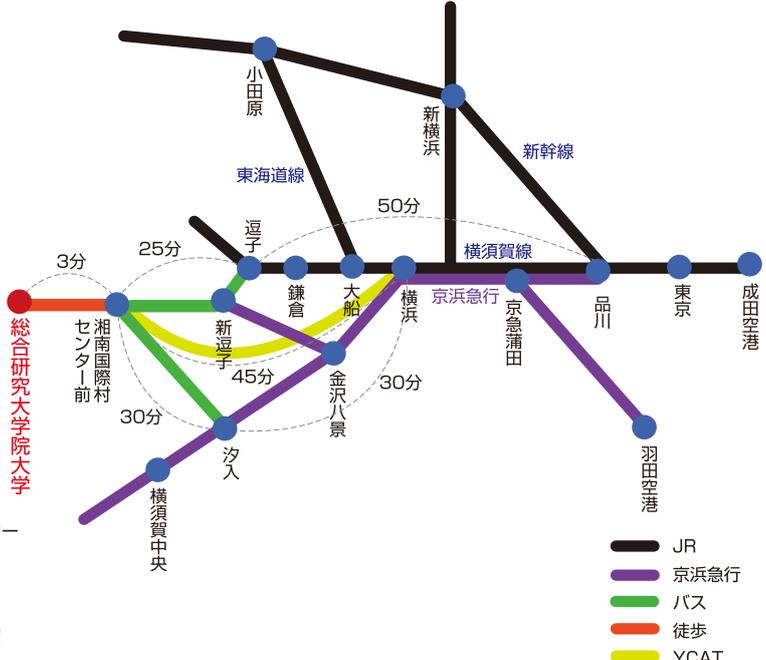
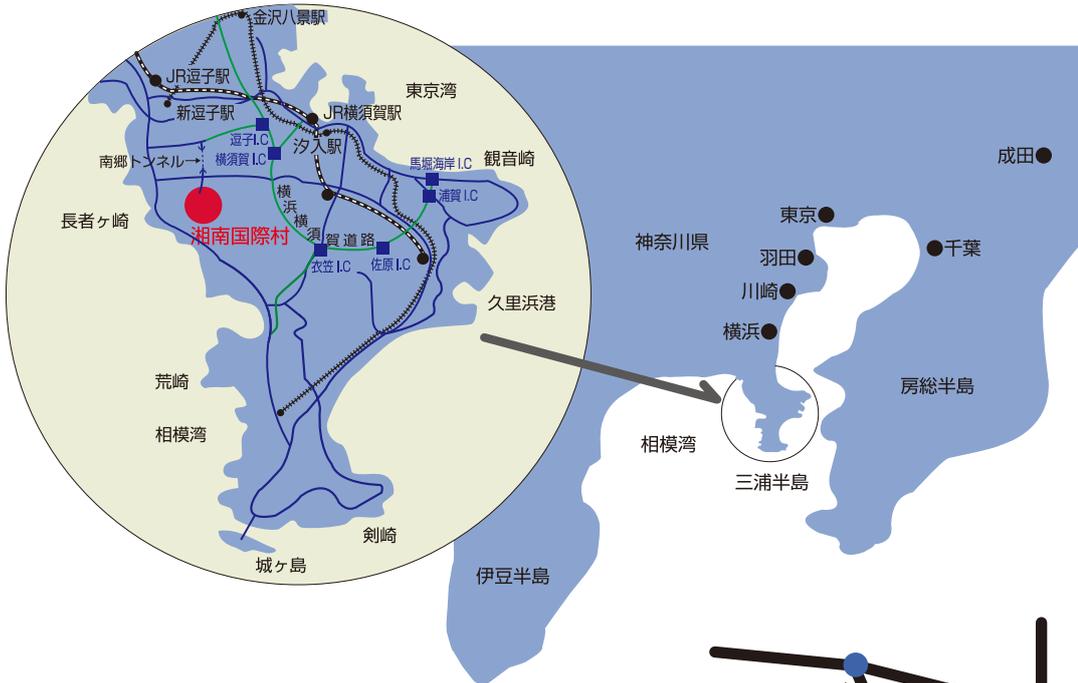
支出予算総額 2,077,396



葉山キャンパス施設配置図



葉山キャンパスアクセスマップ



- 電車・バス利用
 - JR横須賀線逗子駅東口下車
 - ▶京急バス①番乗り場より16系統・26系統「湘南国際村」行き、「湘南国際村センター前」下車
乗車時間：約25分 運賃：350円
 - ▶京急バス②番乗り場より「湘南佐島なぎさの丘」行き、「湘南国際村間門沢調整池」下車
乗車時間：約20分 運賃：330円
 - 京浜急行逗子線新逗子駅南口下車
 - ▶京急バス①番乗り場より16系統・26系統「湘南国際村」行き、「湘南国際村センター前」下車
乗車時間：約23分 運賃：350円
 - ▶京急バス②番乗り場より「湘南佐島なぎさの丘」行き、「湘南国際村間門沢調整池」下車
乗車時間：約18分 運賃：330円
 - 京浜急行本線汐入駅下車
 - ▶京急バス①番乗り場より16系統「湘南国際村」行き、「湘南国際村センター前」下車
乗車時間：約30分 運賃：380円
 - YCAT（高速バス）
 - ▶横浜/タイ・エアターミナル⑥番乗り場 横須賀西部行き（電力中央研究所行きバス）、「湘南国際村センター前」下車
乗車時間：約45分 運賃：920円
- ②「湘南国際村センター前」下車徒歩3分、「湘南国際村間門沢調整池」下車徒歩10分
- 車利用
 - 横浜横須賀道路（有料）「逗子インター」より
 - 逗葉新道（有料）出口より交差点左折
 - 南郷トンネルを抜け直進約5分
 - 「湘南国際村センター入口」交差点を左折約1分



国立大学法人

総合研究大学院大学

SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

Tel.046-858-1500 [代表] / Fax.046-858-1542

<https://www.soken.ac.jp/>